

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 令和4年度事業報告

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

はじめに

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルスの第7波と第8波に見舞われたものの、各施設がこれまでのウィズコロナの中で培った知見を活かして適切に対応策を講じながら、協約目標の達成に向けて取り組みました。とりわけ、オンライン講座や授業コンテンツの動画配信の強化、パシフィコ横浜のMICEイベントやホテルを会場としたパネル展示等の開催など、アウトリーチ活動の多様化を進め、博物館に直接来館できなくても横浜の歴史を伝える展示や文化財に触れていただける機会の増加に取り組みました。

こうした取組の結果、令和3年度に策定した第6期の協約については、昨年度未達成だった「授業コンテンツの作成協力本数」を含む全項目について目標を達成することができました。また、学校団体の受け入れや訪問授業の受講児童生徒数も大幅に増加させただけでなく、横浜市教育委員会生涯学習文化財課と協働での訪問授業をあらたに開始しました。

令和3年度よりスタートした、開港資料館を拠点として山下公園、元町、中華街エリアを文化観光拠点とする「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に関する取組では、付属棟の内装工事が竣工しミュージアムショップやカフェ、コンシェルジュの複合機能施設が完成したほか、所蔵資料のデジタルアーカイブのβ版の完成、多言語ウェブコンテンツ「こい旅横浜」の開発など、初期に進めた事業の成果が形となった1年となりました。

このほか、令和5年度に実施予定の、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の空調機器の更新に向け、安全な資料の保管場所の確保に向けた歴史博物館の収蔵庫の棚の延長工事の設計や、職員の執務室受け入れに向けた他施設の準備など、財団全体を挙げて取組を進めました。

埋蔵文化財センターでは、横浜市や民間からの発掘調査事業を受託し、学術的な成果を挙げるだけでなく、事業収入面でも財団の安定的な経営基盤に寄与しました。また、「文化観光拠点計画」の推進や、横浜北部の地域文化遺産をつなぐ「よこはま縁むすび講中」事業の推進に文化庁の補助事業を活用したことをはじめ、3回目となった「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」ではクラウドファンディングを実施するなど、外部資金の確保に取り組み、引き続き正味財産期末残高約2億6千万円を確保しました。今後も経営環境を整え、財務体質の強化を図ることにより、財団が一体となってその使命を達成していきます。

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に横浜市と連携して取り組みました。

また、諸会議の運営や事業調整を実施し、円滑な組織の運営を図るとともに、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を的確に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 人材育成を図るための研修実施 ・内部研修「あらためて知る「公益法人」「文化観光研修」の開催への参加 ・外部研修「会計セミナー実務編」「公益法人の税務・消費税編」への参加（公益法人協会主催セミナー等） ・職員を講師とした人権啓発研修 (2) 職員が自らのキャリアパスを意識できる申告制度の実施 職員自己申告の実施 (3) 役員会議等の諸会議の開催、規則整備 役員会議（第1部、第2部） 月2回 課長会議 月2回程度 担当係長会議 月1回程度 <主な内容> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対応について ・第6期協約について ・文化庁補助事業について
2	人事労務・財務の管理	(1) 職員の採用、異動等雇用管理 (2) 就業規則ほか諸規則の整備及び運用 (3) 給与、社会保険、税金関係等 (4) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策 (5) 職員メンタルヘルスの支援 (6) 寄附金・協賛金・クラウドファンディングによる資金獲得の企画調整
3	予算編成と執行管理	(1) 予算要求制度の継続実施 (2) 予算編成、執行管理、決算の実施
4	災害対応	(1) 各施設の危機管理マニュアルの見直し (2) テロ対策訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年4回（リモートを併用） (2) 評議員会の開催 年2回 (3) 神奈川県への報告

6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく報告 (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止対応等の報告・調整 (4) 課題の共有と迅速な対応を図るための意見交換の実施(毎月)
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理(情報公開項目の更新等) (2) 財団メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行 (3) 提供ラジオ番組「横濱1歴史のタイムマシーン」(マリンFM)の放送 (4) プレスリリース配信システム「PRTIMES」の利用
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器(ソフトウェア等を含む)の保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの円滑な運用、次期システムの仕様検討
9	事業推進	(1) 事業戦略に係る共通認識の形成 ・課長会議、管理運営担当係長会議を通じた共通認識の形成 (2) 財団の役割や事業を伝える効果的な広報戦略の実施 (3) 市民協働の推進 (4) コロナ下における博物館活動の検討、実施
10	エデュケーター事業	(1) 学校連携による財団各施設の利用促進 (2) 教職員研修の企画・調整・運営 ・横浜市教委、小・中社会科研究会、財団が主催する研修 (3) 社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援 (4) 学校から要請のあった訪問授業への対応 ・実施校 124 校、対象児童 12,317 人 (5) 授業コンテンツ動画の制作 ・制作本数 19 本 ・再生回数 53,478 回 (6) 博物館来館校の対応 (7) 子どもの学びのための資料作成

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	新型コロナウイルス感染症対応に際して、横浜市と連携して適切に対応した。令和4年度に立上げた拠点計画推進課では順調に「横浜開港資料館 文化観光拠点計画」を実施した。協約目標であった授業コンテンツの制作についても19本の動画を作成し数値目標を達成するとともに、再生回数も5万回を超えた。また、公益財団法人として諸届の事務、業務の調整、諸会議の運営、人事労務事務等	S

	は適切に実施することができた。発掘調査の受託や補助金等による事業実施もあり正味財産期末期残高は約2億6千万円を確保することができた。	
--	--	--

Ⅱ 指定管理事業

1 財団全体としての取組及び事業

各施設では、SNS等による情報発信を強化するとともに、オンライン講座の開催や小学生向けの動画コンテンツの制作、「活字」データベースの公開、来館者個人のモバイル端末を利用した展示室内でのビデオ配信など、デジタル技術を利用して歴史の理解を深める工夫を凝らしました。

また、舞岡熊之堂の戦争遺跡の展示を戸塚区役所で開催したことや、小机城の発掘調査の報告を港北区とともに「お城 EXP0」で情報発信したこと、「畠山重忠」の企画展で旭区に紹介パネルを展示するなど連携事業を推進しました。今後も職員の知識、経験、行動力を集結し、多様な組織と連携しながら、取組を進めていきます。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先		中心となる施設	内 容
区・地域との連携	全区		全管理運営施設	・各管理運営施設の所在区をはじめとして、各区の要請等により、歴史文化に関する助言や執筆活動等による支援を実施
	特定テーマや事業を通じた連携	中区	開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」に執筆
		戸塚区	埋文センター	・横浜の遺跡展「舞岡熊之堂の戦争遺跡」を戸塚区役所にて開催（戸塚区役所後援）
		旭区	歴史博物館	・大河ドラマに関連し、昨年度制作した畠山重忠関連の解説パネルを区内で展示。横浜 LOVEwalker「畠山重忠」のYoutube 番組出演。 ・旭区役所と企画展「追憶のサムライ-横浜・中世武士のイメージとリアル-」で協力
		金沢区	歴史博物館 埋文センター	・「むかし体験」訪問歴史授業を実施
		港北区	歴史博物館 埋文センター	・小机城跡発掘調査映像の素材撮影 ・お城 EXP02022 で小机城発掘成果をパネル展示により紹介 ・地域の文化芸術活性化支援事業「横浜・都筑・青葉秋の(大)文化祭」の一環で「知られざる港北の宝〜横浜市港北公会堂の「どんちょう」」を楽し

				- む」講座を開催 ・小冊子「緞帳から見える港北区の歴史 ～人間国宝芹沢銈介が描いた鶴見川～」作成協力 ・よこはま縁むすび講中の一環で「4区をめぐる小机城ガイドツアー」、「小机の重政」上映会にて協働 ・港北地域学講座 第1回 「横浜市歴史博物館で学ぶ「よこはま縁むすび講中」って何？」を歴史博物館で開催、学芸員が講師を務めた
		青葉区	歴史博物館 埋文センター	・地域の文化芸術活性化支援事業の一環で横浜市民ギャラリーあざみ野にて横浜・都筑・青葉秋の(大)文化祭「和太鼓をたたこう！」開催 ・勾玉作り教室、遺跡巡りを開催(青葉台コミュニティハウス、美しが丘西地区センター)
		都筑区	歴史博物館	・都筑図書館と「ある地侍の戦国から江戸時代」をテーマにした共催講座及び関連展示を実施
		栄区	埋文センター	・栄図書館テーマ展示協力 ・栄区地域振興課 歴史探索ウォーキング・講座(職員派遣)、栄区民活動支援情報誌 情報提供 ・栄区郷土資料室入室・受付・案内
市との連携	研修会等	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 市史資料室	・市職員向け講座等の実施 ・区局主催の研修会への協力 ・市新採用職員研修での講話	
	市民局	歴史博物館	・広報課発行「季刊誌横濱」への執筆 ・広報番組 TVK「ハマナビ」、ニッポン放送「ようこそ横浜」等への出演	
		開港資料館 都市発展記念館	・広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆 ・広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演 ・広報よこはま全市版での連載原稿の執筆	
	環境創造局 都市整備局	開港資料館 都市発展記念館	・発掘調査および歴史的建造物の保存改修工事等への助言	
	文化観光局	歴史博物館	・地域の文化芸術活性化支援事業で助成を受け、「横浜・都筑・青葉秋の(大)文化祭」事業を実施。	
	交通局	歴史博物館	・地域の文化芸術活性化支援事業「横浜・都筑・青葉秋の(大)文化祭」の一環で市営地下鉄内サイネージによる広報を実施	
	環境創造局	開港資料館 都市発展記念館	・歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	
	建築局	開港資料館 都市発展記念館	・横浜市公共建築 100 周年事業への館蔵資料提供および記念誌執筆の協力	
	消防局	開港資料館 都市発展記念館	・横浜市消防局消防訓練センター初任者研修への講師派遣 ・アジア消防長協会・全国消防長会総会(IFCAA2022	

			YOKOHAMA) 開催にともなう関連パネル展の実施 ・横浜国際消防・防災展への出展
	国際局	ユーラシア文化館	・友好都市、パートナーシップ都市などの関連事業で協力。
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所	全施設	・教材研究資料として財団作成資料等を発信 ・歴史博物館「博物館活用研修」の実施 ・教職員研修への協力
	教職員育成課	全施設	・新採用教員への施設年間無料パスを配布
	生涯学習文化財課	全施設	・歴史博物館「令和4年度横浜市指定登録文化財展」の共同開催 ・文化財調査への協力 ・文化財修理協議会への協力 ・遺跡現地説明会への協力 ・閑家住宅公開事業の受託 ・横浜市文化財保存活用地域計画の作成協力および協議会委員の派遣 ・小学生向け「昔のくらし」動画の配信
	市中央図書館	埋文センター	・ヨコハマライブラリースクール講師
	中図書館	ユーラシア文化館	・中区ブックフェスタに参加
市・区研究会との連携	社会科研究会 (市・区)	全施設	・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会の運営支援 ・中学校教材開発研究会の運営支援
学校との連携	小学校	全施設	・歴史学習、社会見学、展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小学校	埋文センター	・栄区・港南区・戸塚区の小学校を対象に出前授業の実施。
	近隣小学校	三殿台考古館	・小学校の地域交流クラブに講師を派遣 ・総合的な学習の時間等への支援
	小中学校	歴史博物館	・学校資料室の資料整理及び活用支援
	中学校	埋文センター	・職場体験の受け入れ
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 市史資料室	・神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科学研究発表大会を博物館講堂で開催し、各館職員が審査員を担当
	横浜英和学院	歴史博物館	・永井記念歴史展示室新設にあたり展示の助言と監修を実施
他館等との連携	神奈川県博物館協会	歴史博物館 都市発展記念館	・部会への職員派遣 ・川崎市市民ミュージアムの資料レスキューのため職員を派遣
	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	歴史博物館	・定例会に職員を派遣

	県立歴史博物館等	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・展覧会への資料の貸出 ・展覧会準備や調査研究を目的とした資料熟覧対応 ・調査および展覧会への協力（洞穴遺跡展）
	(公財) かながわ考古学財団	歴史博物館 埋文センター	・令和 4 年度発掘調査出土品等展示会及び発掘調査成果発表会の開催 ・職員派遣（動物骨同定）
	相模民俗学会	歴史博物館	・民俗学講演会「疫病退散の湯立獅子舞」（講師：松田香代子氏）を共催
	国文学研究資料館	開港資料館	・国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）の受け入れ
	新聞博物館・放送ライブラリー	都市発展記念館 ユーラシア文化館	・横浜情報文化センターの 2 施設との広報やイベントなどの事業連携
	ふじのくに地球環境史ミュージアム	埋文センター	・ふじのくに地球環境史ミュージアムのトピックス展「古代 DNA で探る先史時代の捕鯨」を共催・研究協力
大学との連携	横浜市立大学	歴史博物館	・横浜市立大学と連携し、企画展「追憶のサムライ-横浜・中世武士のイメージとリアル-」を実施
	東京大学史料編纂所画像史料解析センター	開港資料館	・幕末期に撮影されたガラス板写真の高精細撮影と内容分析
	東海大学	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 市史資料室	・東海大学と協働し、文化財資料の教育活用事業による博物館実習を実施 ・東海大学「地域史演習」への協力 ・東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究シンポジウムを実施
	学外見学の受け入れ	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・大学の博物館課程等、カリキュラムに即した学外見学の受け入れ
	大学学外研修	ユーラシア文化館	・東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習を受入
市民協働	市民ボランティア	歴史博物館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	< 展示解説ボランティア > ・大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説を、感染対策を徹底した上で実施 ・学校団体へのガイドは、可能な限り小グループに分けて実施 < 活動支援ボランティア > ・感染対策を徹底した上で、「当日参加型れきし工房」の実施に協力 ・鉄道展での H0 鉄道模型及びプラレール運行に協 ・企画展開催時の土・日にワークショップを開催 * 新型コロナウイルスの感染拡大状況の様子を見ながら実施

横浜郷土史団体 連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	・研修会、記念講演会の開催協力 ・年1回の総会の開催協力 ・協議会 News 及び会報の発行協力
横浜歴博もりあ げ隊との協働	歴史博物館	・講演会の共催・コンサートの共催 ・会報、つづき人交流フェスタ等への活動支援
横浜縄文土器つ くりの会	歴史博物館	・博物館の調査研究活動に協力 ・実験考古学講座の開催
横浜古文書を読 む会	歴史博物館	・原則として月2回の講座の開催支援 ・有志による調査研究活動の実施 ・特別講座の開催支援
横浜古代史料を 読む会	歴史博物館	・古代史料購読会の開催支援 ・特別講座の開催支援
横浜さいかちの 会	歴史博物館	・史料購読講座の開催支援 ・史蹟見学会の開催支援
スタチューパフ ォーマンス協会	ユーラシア文化館 開港資料館 都市発展記念館	・横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実 施し、集客と地域の賑わいを創出
遺跡ガイドボラ ンティア及び遺 跡整理ボランテ ィア	三殿台考古館 埋文センター	・遺跡ガイドボランティアによる常設展示、遺跡ガ イドを実施 ・ボランティアの協力を得て出土資料や写真の再 整理を実施
よこはま縁むす び講中	歴史博物館	・北部4区(公財)大倉精神文化研究所、小机城 のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横 浜市民ギャラリーあざみ野と連携し、実行委員 会を組織して実施
よこはま地域文 化遺産デビュ ー・活用実行委 員会	歴史博物館	・「横浜歴博寄席」を実施 ・令和5年度特別展「生誕百年 中田喜直展」の プレ事業として、コンサート「ちいさい秋みつけ た」を実施
映画「杜人」上映 会実行委員会	歴史博物館	・映画「杜人」上映会及びワークショップの開催
みなきたマルシ ェ実行委員会	歴史博物館	・みなきたマルシェへの協力
横浜シティガイ ド協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・連携ガイドツアーの実施 ・特別研修の開催
都筑文化芸術協 会	歴史博物館	・「横浜北部文化フォーラム」の開催 ・ドラマリーディング「奇跡の歌姫渡辺はま 子」の開催
ヨコハマアート サイト事務局	歴史博物館	・アートサイトラウンジ vol137「紙芝居からみえて くるもの」の開催
区や地域の郷土 史団体	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・講座、講演会に講師を派遣
横浜商工会議所	開港資料館	・機関誌「Yokohama 商工季報」への寄稿

	横浜港振興協会	開港資料館	・機関誌「よこはま港」への寄稿
	横浜市防火防災協会	開港資料館	・機関誌「よこはま都市消防」への寄稿
	鶴見川流域水協議会	歴史博物館	・夢交流会 2023&令和4年度鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰の開催 ・鶴見川流域水マスタープラン（水マス）パネル展の開催
	中区区民利用施設等	ユーラシア文化館	・「なか区ブックフェスタ」に参加
	横浜中華街発展会	開港資料館 ユーラシア文化館	・朝陽門石碑案内板の設置 ・多言語ウェブコンテンツの共同制作 ・第3回スタチュー・ミュージアムでの連携 ・中華街での出張展示の実施
	地元商業団体	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・ハマフェス Y163 に参加し、地域の賑わい創出に寄与
	日本大通り活性化委員会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しを実施。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施。
	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ・ハマフェス実施等についての連絡調整
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	青葉区郷土史の会	埋文センター	・歴史講座・遺跡探訪の講師派遣
	上郷ネオポリス自治会	埋文センター	・上郷ネオポリス夏祭り模擬店出店協力（土器パズル）
企業との連携	横浜メディアビジネス総合研究所	歴史博物館	・よこはま縁むすび講中事業について協働で広報・情報発信活動を推進 ・鉄道展において共同で協賛金募集活動を実施
	メイドインつづき	歴史博物館	ものづくりの廃材を利用し、SDGs をテーマにした体験WS「遺跡でワークショップ」を協働して開催
	ローズホテル横浜	ユーラシア文化館	・「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」を実施
その他	イギリス大使館	開港資料館	・イギリス大使館オープンデーにおけるパネル展示への資料提供、上映動画への出演

2 歴史博物館事業

令和4年度は前年度に引き続き「ウィズコロナ」のなかで基本的な感染対策を徹底しつつ、収入増加や外部資金の導入を図りながら博物館活動を進めるとともに、さまざまな団体と連携し、地域の活性化や社会的包摂といった役割を果たす取り組みを進めました。

資料収集では、昨年度から整理を続けてきた都筑区の旧家資料など寄贈5件、購入1件を受け入れました。また昨年市教委に移管となった横浜スカーフアーカイブ資料の閲覧公開を始めました。調査研究事業では、基礎資料研究や連携調査研究14本を進め、成果の一部はpdfで公開した『調査研究報告』、『資料目録』、『紀要』に掲載しました。またDNP文化振興財団から助成を受けて進めた活字の調査研究では、小宮山博史コレクションの活字見本帳をデジタルアーカイブ化した「もじのかたちのデータベース 小宮山博史文庫仮名字形一覧」としてホームページで公開しました。

常設展事業では、上半期は特別展「みんなでつなげる鉄道150年」の展示コーナーとして、また下半期は「中学校社会科作品展」や「令和4年度横浜市指定・登録文化財展」を開催し、活性化を図りました。歴史劇場の故障など、26年を経過して発生している不具合の対応は引き続き大きな課題です。

企画展事業は、鉄道開業150年に合わせた特別展「みんなでつなげる鉄道150年」、大河ドラマに合わせた企画展「追憶のサムライ」、財団で2018年から取り組んできた活字の調査研究の集大成となる企画展「活字」、今年度の新指定文化財を紹介した「令和4年度横浜市指定・登録文化財展」、横浜開港資料館の拠点計画で進めているデジタルアーカイブ構築の成果の一部を活用した企画展「浮世の華」を開催し、市民の多様な生涯学習のニーズに応えました。鉄道展では市内鉄道事業者10社をはじめとする多様な企業や団体と連携して多様な関連事業を展開し、サムライ展と活字展では出版社と連携して雑誌『書物学』を特集号として刊行しました。

企画普及事業は感染症対策を徹底しながら対面の催しを再開し、オンラインやアーカイブ配信を併用して実施しました。展示解説ボランティアは昨年募集したメンバーを加えて4月から活動を開始しました。学校連携事業では各種の訪問授業など多様な連携事業などを実施し、広報では昨年試行したチケットサービスによる前売券販売を行いました。

よこはま縁結び講中は、横浜北部にある地域文化遺産をつなぐ取り組みです。文化庁の「令和4年度 Innovate MUSEUM 事業地域課題対応支援事業」の助成を得て、地域が内包する文化・歴史・自然・産業・商業・公共施設・民間施設などのあらゆるモノ・コトを発信することを目的として当館を含めた5団体が地域の文化遺産を活用したオリジナリティあふれる事業を緩やかに連携しながら実施しました。また各区の地域資源や活動団体などをまとめる調査を行いました。事業内容や調査の成果はwebで発信を行いました。

施設の管理運営では、ガイドラインに則した感染症対策を実施して安全で安心な来館環境づくりに努め、開館以来26年が経過した施設・設備についても日頃からの監視と保全に取り組み、安定した運営を支えました。収益事業では、ショップの新商品開発や企画展関連商品の充実を図り、特に鉄道展では市内鉄道事業者10社のグッズを揃えました。オンラインショップを含めた今期売上は歴代最高の1700万円となりました。駐車場事業は、昨年からの駐車場管理会社への委託を継続し、コインパーキング化によるキャッシュレス対応等の利便性の向上と費用超過を解消しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、寄贈・移管等の方法で収集し、分類・整理するとともに良好な状態で保管するため、資料の燻蒸を行いました。

令和4年度は前年度に移管を受けたスカーフ資料の閲覧公開を開始し、神奈川県博物館協会による川崎市市民ミュージアムの資料レスキューに職員を派遣しました。

（1）資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	購入1件 1点 寄贈5件 1,587点	購入資料：保土ヶ谷宿高札 主な寄贈資料：戸塚消防関係資料 都筑区茅ヶ崎米山家文書 紙芝居関係資料
移管資料の保管	移管 1件	主な収集資料： 横浜スカーフ展示資料 1件 37点 （経済局工業技術支援センターより教育委員会生涯学習文化財課に移管後、保管場所を当館とした）
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	2,136件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	11件 100点	他機関における展覧会を目的に資料の貸出を行った。 ・神奈川県立歴史博物館特別展「洞窟遺跡を掘る ー海蝕洞窟の考古学ー」 令和4年4月29日～6月26日 「E5遺跡出土鉄剣」「三殿台遺跡出土骨角器」2点 ・大阪府立弥生文化博物館特別展「南関東の弥生文化ー東からの視点ー」 令和4年7月16日～9月19日 「E5遺跡出土鉄剣」「大塚遺跡出土石器」等計31点 ・大田区立郷土博物館特別展「大勾玉展」 令和4年8月2日～10月16日 「No.79遺跡出土翡翠大珠」「朝光寺原1号墳出土勾玉白玉一括」等計3件 ・十日町市博物館特別展「縄文時代の始まりを探る」 令和4年10月1日～11月13日 「花見山遺跡出土土器」「花見山遺跡出土石器」計26点 ・あつぎ郷土博物館特別展「有孔鏝付土器と人体装飾文の世界」 令和4年7月23日～9月19日 「大塚仲町遺跡出土土鈴」「原出口遺跡出土注口土器」計4点 ・港区立郷土歴史館学習会 令和4年7月27日 称名寺貝塚出土銚頭レプリカ5点 ・宮崎県立西都原考古博物館国際交流展「古墳時代の台

		所革命と東アジア 美味なる“ごはん”の考古学」 令和4年10月8日～12月11日 「北川表の上遺跡出土炭化ご飯復元模型」等計3点 ・板橋区立郷土資料館特別展「接収刀剣―板橋に集いし赤羽刀―」 令和4年10月8日～12月28日 「脇指 越前国兼則」、「短刀 兼涌」等計7点 ・北区飛鳥山博物館企画展「縄文料理と弥生ごはん」 令和4年10月29日～12月11日 「池子遺跡出土広鋏・又鋏（複製）」2点 ・かながわ考古学財団令和4年度かながわの遺跡展 神奈川県立歴史博物館令和4年12月24日～1月29日 相模原市立博物館令和5年2月7日～3月5日 「原出口遺跡出土土偶」「華蔵台遺跡出土耳飾」等計16点 ・サントリー美術館「没後190年記念 木米」 令和5年2月8日～3月26日 『陶法手録』1冊 青木木米
資料の整理活用（収集資料の特別利用）	33 件	他機関における展覧会のための貸出、および調査研究を目的とした資料の熟覧、撮影等特別利用に対応した。 33 件の内訳は考古資料 17 件、古文書 11 件、模型 1 件、歴史資料 3 件、刀剣 1 件
資料の整理活用（スカーフ資料の閲覧公開）	5 件	昨年度移管された横浜スカーフ資料について、閲覧公開を開始し、本年度は 5 件 133 点に対応した。
図書資料の公開	4, 519 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 747 カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 46 件 95 点	他の博物館や公共機関、出版社、放送局などへの写真資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（R3. 4～R4. 3）

※（ ）内は、前年度点数

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	1, 986 (1, 986)
工芸品 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	132 (132)
彫 刻 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	21 (21)
書 跡 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	54 (54)
典 籍 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	4, 709 (4, 709)
古文書 （点）	（―）	（―）	1, 433 (1, 121)	(292)	1, 433 (1, 413)	36, 355 (34, 922)

古記録 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	55 (55)
絵 図 (点)	(一)	(一)	(一)	(1)	(1)	173 (173)
歴史資料 (点)	1 (一)	(一)	(2)	(一)	1 (2)	18,904 (18,903)
考古資料 (点)	(一)	(一)	(37)	(一)	(37)	24,572 (24,572)
民俗資料 (点)	(一)	(一)	154 (4,867)	(222)	154 (5,089)	22,838 (22,684)
図書文献資料 (点)	95 (116)	(一)	1,233 (1,442)	(一)	1,328 (1,558)	78,477 (77,149)
合 計	96 (116)	(一)	2,820 (7,469)	(515)	2,916 (8,100)	188,276 (185,360)

このほか、資料の移管により、横浜市所蔵の横浜スカーフ展示資料を保管した。

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
閲覧室利用者数(人)	7,421	5,222	4,495
複写申込件数(件)	314	266	221
複写枚数(枚)	3,486	3,021	2,081
レファレンス件数(件)	317	298	223

※令和2年度開室期間 7/1-3/31 (新型コロナウイルス感染拡大防止)

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を4月、9月、12月の計3回行なった。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。庫内および前室の環境を見直し、清掃方法を確認し、防塵マットの設置・交換を行った。

(6) 博物館資料レスキュー

川崎市市民ミュージアムの博物館資料レスキューのために神奈川県博物館協会に職員を派遣し、

歴史資料の乾燥・解体や、民俗資料の仕訳などの作業に当たった。

歴史資料 4/25(月) 2名、6/14(火) 2名、7/14(木) 2名、7/15(金) 1名

民俗資料 12/6 (火) 2名

合計 5日間 計9名

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、（１）基礎資料研究、（２）他施設と連携して行なう連携調査研究、（３）次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、（４）資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

（１）基礎資料研究

項 目	目的・意図
基礎研究	
市域所在の中世資料の調査（２／２年次）	本調査研究では、ひきつづき市域に所在する中世資料の再確認を実施した。今年度は、博物館で調査をすすめている「関家文書」整理を行ったほか、新羽町伊藤宏見氏旧蔵資料について整理を行った。また戦国期に港北区新吉田町に所領を得ていた伊豆国の土豪・高橋郷左衛門にかかわる古文書について所蔵者の自宅で調査を行った。
横浜市域の美術史の基礎的研究（２／２年次）	当館及び財団諸施設また市域の旧家には多くの絵画資料が存在するが、当館では歴史資料としてのみ扱われてきたため見過ごされてきた。これらを美術史の文脈として捉え基礎的データを作成する。 本年度は、収蔵資料を中心に、浮世絵作品を対象に、必要な収蔵目録情報を加える再調査を実施し、作品情報の追加・修正を行った。横浜市文化財調査の一環で実施した寶林寺（南区北永田）の宝物調査並びに整理を継続実施した。将来的には館蔵の禅宗画と合わせて横浜の禅林美術をテーマとした展覧会に結実するよう、今後も調査を進めていく。
横浜市域の古墳時代資料の研究（２／２年次）	上矢部町富士山古墳出土埴輪のうち、接合資料・破片資料の収納を継続して行った。稲荷前古墳群の資料については外部研究者と協働することで、整理を進めることができた。市ヶ尾横穴墓群（神奈川県指定史跡）の調査時資料の確認については、今後の課題としたい。
テーマ研究	
近世後期横浜内陸部の村々の研究（２／２年次）	横浜市域内陸部の村落について、当館所蔵の川和村信田家文書の慶応２年御用留を解読した。武州世直しの影響が当該地域にまで及んでいたことや、治安維持についての増上寺領ならではの特徴を読み取ることができた。この成果は論文等にまとめていずれ報告する予定である。
活字文化と横浜の出版文化に関する研究（２／２年次）	DNP文化振興財団からの助成を受け、活字史研究家小宮山博史氏コレクションの活字見本帳を活用して、平仮名・片仮名字形一覧のデータベースを制作し、博物館のＨＰで公開した。また本調査研究の成果を活用し、企画展「活字 近

	代日本を支えた小さな巨人たち」を開催した。
学校内歴史資料室に関する研究（2／2年次）	平成 25 年度から実施している学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用しながら、学校内歴史資料室の資料所在状況等を明らかにする。 本年度は昨年度に整理を終了した鶴見区の寺尾小学校のふるさと資料館所蔵資料 535 点を『横浜市歴史博物館調査研究報告第 19 号』として HP 上で公開した。
都筑区川和町中山家に関する研究（2／2年次）	平成 30 年度から行った「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」（文化庁地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業）の後継事業として実施している中山恒三郎家資料整理中にみつかった文字資料としての冊子類について調査研究を行い、紀要にて「翻刻 中山恒三郎家「営業簿」（昭和七～八年）」として発表した。
市民協働調査研究	
土器の実験考古学的研究（2／2年次）	山形大学の白石哲也准教授と協働し、土器の調理実験を行った。その成果は令和 5 年 5 月 2 日の EAC13 にて報告した。 同じく山形大学の白石哲也准教授・有限会社 NORMA と協働して弥生土器での魚醬づくりを実施した。また大塚遺跡出土土器の使用実験を実施した。以上 2 点についてはその成果を、今後当館紀要などで発表したい。 東京大学埋蔵文化財調査室(当時)の山下優介氏、横浜縄文土器づくりの会と協働して種子圧痕調査に関連する弥生土器の製作実験を実施した。こちらも継続して実施予定である。
市民協働古文書整理解読（2／2年次）	武州金沢藩の目付日記（明治 4 年）部分の解読を行い、紀要にて成果を報告した。昨年度に引き続き、コロナ禍に対応し、オンライン会議システムを利用してリモートで輪読を行った。今年で目付日記の解読は終了となるが、引き続き当館所蔵の古文書の解読および成果報告を継続していきたい。
市民協働民俗調査（2／2年次）	昨年度より引き続き、民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを実施した。また夏季にはこれまでの FW の内容を深める勉強会を 2 回実施した。 5/3 緑区台村町・三保町 FW、7/18 勉強会「恩田川の堰について」・「石造物の費用について」、9/18 勉強会「青砥堰（万代堰）と青砥用水」、「石造物で考える」於中山地区センター、11/23 勉強会「かやぶき屋根」於歴史博物館、2/12 緑区西八朔・小山町 FW。

（2）連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団の諸施設や他の研究機関と連携して調査研究を実施した。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
小机城・小机地域にかかわる総合的研究（3	今年度は 1 月～2 月にかけて横浜市教育委員会が実施した小机城発掘調査について調査の様子を映像に納めた。地域資料としては小机町・鈴木家に存する

／5年次)	「豊臣秀吉禁制」およびその他の資料について実見を行った。
大塚遺跡の水田に関する研究（2／2年次）	水田稲作比較研究プロジェクトのリモート例会に参加しつつ、神奈川県での実験水田の製作に協力した(令和4年5月9日、令和5年1月10日、3月8日)。令和5年度も継続して実施予定。 令和4年12月17・18日に当館にて「弥生・古墳の水田復元研究会公開シンポジウム」を事務局として運営に参画し開催した。
ユーラシア概念をめぐる研究（2／2年次）	ユーラシア文化館と連携して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。 今年度はコロナ禍の影響で研究発表会を開催することができなかった。

(3) 企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「浮世の華 描かれた港崎」	展示計画を検討し、横浜開港資料館、横浜中央図書館、館蔵資料の調査及び撮影を行った。年度をまたぐ展示のため、展示に係る造作物（キャプション、章解説等）広報印刷物の制作を行った。 また関連イベントとして横浜シティガイド協会とのまち歩きイベントの事前打ち合わせを行った。
企画展「君も今日から考古学者 2023」	ハンズオン展示を再開するにあたり、見学者が参画しやすい活動内容について検討した。 Q&A方式の展示を実施するにあたり問と回答の内容について確認した。
特別展「生誕百年 中田喜直展」	展示計画を検討し、中田家をはじめ、資料所蔵機関や個人に対し調査・出陳交渉を行った。早めの広報開始を企図し、広報印刷物の制作にも着手した。
「輸出産業展」	展示計画を検討し、資料所蔵調査および借用予定資料の調査を行った。
令和6年度以降企画展調査	令和6年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

(4) 資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	都筑区旧家古文書	1427	完了
2	都筑区製氷関係文書	6	完了
3	戸塚区旧家古文書	1629	完了
4	緑区旧家古文書	250	継続
5	へボン関係資料	200	完了
6	平尾家コレクション（郷土玩具）	3507	継続

		(1842 件中)	
--	--	--------------	--

このほか、横浜市教育委員会からの依頼により、令和4年4月～令和5年3月まで横浜市八聖殿郷土資料館所蔵の民俗資料の整理調査、伊藤宏見旧蔵資料の整理調査・作品撮影・東海大との協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習との連携を行った〔5－（7）参照〕。

（5）調査研究報告の刊行

『横浜市歴史博物館調査研究報告第19号』を刊行した。

今号は、平成25年度から実施している校内歴史資料室の資料整理の成果を活用し、昨年度に整理を終了した鶴見区の寺尾小学校のふるさと資料館所蔵資料535点を『横浜市歴史博物館調査研究報告第19号』としてHP上で公開した。

なお調査研究報告は昨年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

（6）紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第27号』を刊行した。今号は以下を掲載した。なお、調査研究報告同様、紀要は昨年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

- 論 文 ・ 柳沢家と米倉家―武州金沢二代藩主米倉鍋三郎里矩の家督相続をめぐって―
- ・ 山内清男の『日本先史土器の縄紋』と塚田 光
- 報 告 ・ 山内清男の日本先史土器における縄紋研究の草稿について
- 資料紹介 ・ 横浜市立大学所蔵「紀朝臣葛成墾田売券」
- ・ 横浜市立桜岡小学校旧蔵役行者像
- ・ 「明治四年 武州金沢藩（六浦藩）監察日記」(2)
- ・ 翻刻 中山恒三郎家「営業簿」（昭和七～八年）

（7）資料目録の刊行

『横浜市歴史博物館資料目録第31集』を刊行した。今号は、相模国鎌倉郡後山田村（現在の横浜市戸塚区川上町）の大山家文書の目録を掲載した。

資料目録は昨年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

（8）調査等への職員派遣

下記調査や会議に職員を派遣した。

名称・日程	派遣人数	内 容
横浜市文化財総合調査	2名	横浜市教育委員会による文化財の総合調査 5/21（土）宗教法人光明寺（南区） 8/23 宗教法人八杉神社（港北区） 10/18 宗教法人薬王寺（金沢区）
文化財修理協議会	3名	横浜市教育委員会による向導寺所蔵木造阿弥陀如来坐像の修理協議会

		令和4年4月12日 修理事前協議 4月10日 第1回修理協議会 10月19日 第2回修理協議会 令和5年3月31日 第3回修理協議会
--	--	---

- ・このほか、神奈川県博物館協会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、横浜郷土史団体連絡協議会に職員を派遣し、定例の会議への参加、研修会等の開催などに協力した。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度上半期は常設展示室内を特別展「みんなでつなげる鉄道150年 鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり」の展示コーナーと位置づけ、川崎市市民ミュージアムと連携したパネル展「新鶴見操車場－鉄道操車場物語から－」を設置したほか、スタディサロンには6/19（日）まではH O 鉄道模型のジオラマを、6/25（土）からは子どもたちに人気の鉄道おもちゃによる横浜市内の鉄道路線と街をあらわしたジオラマを設置して毎日定時に運行し、常設展の活性化を図りました。

下半期は、スタディサロンを活用し、12月から1月にかけて「横浜市中学校社会科研究発表作品展」を、1月から3月にかけては「令和4年度横浜市指定・登録文化財展」を開催しました。

このほか、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底しつつ、展示解説ボランティアによる常設展示室の解説を実施しました。歴史劇場は2021年末に劇場内のプロジェクター故障が起こり、対応を所管課と協議しました。毎月最終土曜日には街頭紙芝居の実演を行いました。

（1）保守点検・維持管理

展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検は、近世桜屋模型の照明交換および全体調整1回の実施とし、各時代ブースの模型清掃は年度末に実施した。日常の展示資料の清掃は、職員が月2回の頻度で実施した。また歴史劇場の故障については所管局と対応を協議した。

（2）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
特別展「みんなでつなげる鉄道150年」の実施	常設展の一部を特別展「みんなでつなげる鉄道150年」の展示コーナーと位置づけ、9月25日までパネル展やスタディサロンでの鉄道模型やおもちゃのジオラマ展示を行った。
中学校社会科作品展の開催	12月10日から1月11日までは「横浜市中学校社会科研究発表作品展」を開催した。
指定・登録文化財展の開催	1月25日～3月12日まで、スタディサロンを会場として「令和4年度横浜市指定・登録文化財展」を行った。
デジタルサイネージの運用	「茅ヶ崎城址公園(中世)」、「東海道と横浜の宿場(近世)」、「廻り地蔵(民俗)」、「よこはま縁むすび講中の活動の一環として実施した都筑橘樹十二薬師霊場」のスライド上映による解説をスタディサロンに常設し、上映した。
多言語化解説のコンテンツ運	日本語、英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語での多言語解説アプリ

用	「ミュージズナビ」を、常設展示室にて運用した。
「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」の活用	スタディサロンでは、来館者のスマホやタブレットで歴史クイズやオリジナルビデオが視聴できる「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」を提供した。

(3) 常設展示室観覧者の推移 (令和4年度 基本観覧想定数人)

	有料観覧者 (人)					無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
4年度	19,349	4,288	1,295	4,335	29,418	24,681	54,099	152.9%	306日	176
3年度	11,811	4,300	981	3,223	20,315	15,064	35,379	129.9%	306日	116
2年度	9,943	3,624	139	2,168	16,474	10,755	27,229	75.7%	254日	107



鉄道展でスタディサロンに展開したおもちゃのジオラマ



スタディサロンに展示した文化財展

4 企画展事業 (定款第4条第1項第1号②)

時機に応じた様々な横浜の歴史を取り上げ、また調査研究の成果を踏まえた企画展示を開催しました。関連事業は感染症対策を踏まえて実施しました。

(1) 企画展・特別展の実施

※目標数はコロナ禍以前に算出した数値

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年 鉄道発祥の地よこはま と沿線の移り変わり」 令和4年3月19日(土)～9月25日(日) 会期163日 開館日数191日	一般 1,200円 高大 1,000円 小中市内 500円 在住65歳以上	30,152人 会期190日 開館日数152日 1日あたり198人	新橋と横浜間を結ぶ鉄道開業150年にあたり、本事業では、横浜における鉄道史の概略や横浜を走る鉄道会社10社の歩みと現在・将来における事業展開などを、展覧会や関連事業を通じて広く横浜市民に紹介し、横浜の発展を支えてきた鉄道の奥深さや新たな発見および横浜や鉄道に対するさらなる愛着を深めることを目的に事業を行った。また、本展では上記事業とともに、横浜市歴史博物館においてこれまで行ってこなかった試みをいくつか行った。具体的には、①会期を年度またぎで開催し且つ6か月にわたる展示期間を設定、長期展示においても来館者数を維持できるようイベント等

		の工夫を行った。②企画展示室のみならず常設展示室内など、展示スペースを拡張して展示することで常設展示室への誘導を行い、総合的な博識を深めるきっかけを創造した。会期中、コロナウィルスの影響が再発した時期もあったが、結果として 30000 人を超える来館者を迎えることが出来た点と、その内実として新規来館者が増加したこと、また、満足度においても高い評価を得ることが出来た点等は総合評価としても高い評価に値すると考えられる。図録 2049 冊 関連事業 ①記念講演会「初期の京浜電気鉄道」（講演者：川崎市市民ミュージアム学芸員 鈴木勇一郎氏） 日程：5/14（土）14：00～15：30 場所：横浜市歴史博物館講堂 参加費：¥800 参加人数：60 名 ②「展示みどころ解説」（担当学芸員による展示解説） 場所：横浜市歴史博物館講堂 日程：6/4（土）14：00～14：40 25 人 6/11（土）同上 34 人 8/7（土）同上 13 人 9/3（土）同上 25 人 参加費：無料(企画展入場料金) ③連携ガイドツアー（横浜シティガイド協会主催） ・場所：東神奈川駅～横浜駅周辺 日程：7/1（金）9：30～12：00 34 人 参加費：¥500（横浜シティガイド協会） ・場所：市営地下鉄中川駅～横浜市歴史博物館（特別展観覧+展示解説） 日程：7/8（金）同上 24 人 参加費：¥1000（横浜シティガイド協会。観覧料込） ・場所：長津田駅周辺 日程：9/21（水）同上 29 人 参加費：¥500（横浜シティガイド協会） ※いずれの会にも担当学芸員小林が参加。 ④アンバサダーと特別展見学（特別展アンバサダー 藤田優一さんと共に特別展観覧とジオラマ内に模型の家をつくるワークショップ、担当学芸員によ
--	--	---

			る展示解説) 場所:横浜市歴史博物館講堂、企画展示室、常設展示室 日程: 8/7 (日) 17:00~18:30 9組 21人 参加費: ¥2500 ⑤展示協力者による鉄道クロストーク (特別展開催に協力いただいた方々を招いてのトークイベント) 場所: 横浜市歴史博物館講堂 日程: 9/10 (土) 18人 参加費: ¥500 ⑥横浜の鉄道グッズマルシェとマスコットキャラクターふれあい広場 (各社鉄道グッズ販売とマスコットキャラクターとの撮影会) 場所: 横浜市歴史博物館エントランスホール 日程: 6/25 (土) JR 東日本・総合車両製作所 7/30 (土) 相模鉄道・東急電鉄・横浜高速鉄道 8/27 (土) 京急電鉄・横浜シーサイドライン 9/24 (土) 横浜市交通局・JR 貨物 参加費: 無料 (撮影会は整理券配布の後、限定 40 組) 観覧者 338 名 会場: 研修室
企画展「追憶のサムライ-横浜・中世武士のイメージとリアル-」 令和 4 年 10 月 8 日 (土) ~ 11 月 27 日 (日) 会期 51 日 開館日数 44 日	一般 800 円 高大 600 円 小中学生、市在住 65 歳以上 200 円	7,271 人 会期 50 日 開館日数 44 日 1 日あたり 165 人	「追憶のサムライ-横浜・中世武士のイメージとリアル-」と題し、横浜市域に遺る鎌倉武士の伝承から武士イメージの形成と、横浜市立大学所蔵の古代・中世文書から武士のリアルを紹介し、また鎌倉武士をテーマとした現代作家の絵画や刀剣・甲冑などの作品を展示した。鎌倉武士の伝承については近世末の「六塚之記写」(神奈川県立公文書館蔵)や「夏野の露」(旭区・清来寺蔵)、東光禅寺(金沢区)の石塔や馬具など地域の伝承資料を初めて展示、また武士のリアルについては昭和 26 年(1951)に横浜市立大学教授舟越康寿氏が購入した資料群 12 件 50 点を初めて一括で展示した。さらに鎌倉武士をテーマとした現代作家の作品は、国選定保存技術者の甲冑師・西岡文夫氏をはじめ制作グループ「朱紅会」の協力を得て 15 点を展示した。関連事業は会期前のプレ講座(全 5 回)・講演会(3 回)・ミニ講座(2 回)・ギャラ

		リートーク(3回)の他、大鑑WS(2回)と神奈川県古書籍商業協同組合による「歴史小説フェア」を実施した。このうち5回のプレ講座は12/31までアーカイブ配信を行った。出版物は(株)勉誠社と連携して同社の雑誌『書物学』20号に特集「追憶のサムライ」を組み、展示内容に関わる多くの執筆陣の論考を掲載した。販売は489冊だった。また旭区連携事業として畠山重忠紹介パネルを制作して区内各所に掲示したほか、横浜市立大学国際教養学部松本郁代ゼミと協働してゼミでの資料購読の成果を展示室にパネル展示し、横浜市立鶴ヶ峰小学校6年2組の総合学習の成果である畠山重忠の紹介を会期中に廊下に掲示した。その他、企画展特設ウェブサイトを作成・公開して広報に努めた。 関連事業 ①関連プレ講座:もっと知りたい!鎌倉(全5回) (各回共通)場所:講堂、時間:14:00~16:00、参加費:600円(一括申込2500円) (1)4/23「鎌倉幕府の治安維持」講師・西田友広氏(東京大学史料編纂所准教授)、参加者84人、(2)5/29「鎌倉“道”の記憶」講師・阿諏訪青美(当館主任学芸員)、参加者109人、(3)6/26「鎌倉武士と京・鎌倉」講師・高橋慎一郎氏(東京大学史料編纂所教授)、参加者89人、(4)8/20「北条政子危篤の報と公家社会」講師・遠藤珠紀氏(東京大学史料編纂所准教授)、参加者83人、(5)9/17「鎌倉御家人の所領経営」講師・井上聡氏(東京大学史料編纂所准教授)、参加者90人、全5回計455人。 ②講演会:全3回、(各回共通)場所:講堂、時間:14:00~16:00、参加費:1000円 (1)10/20「三代将軍源実朝と鎌倉幕府-実朝のイメージとリアル-」講師・坂井孝一氏(創価大学文学部教授)参加者114人、 (2)11/6「横浜市立大学の所蔵文書について」講師・久留島典子氏、参加者15人、 (3)11/23「「関東」と鎌倉殿という記憶」講師・関幸彦氏(日本大学文理学部特任教授)、参加者101人、 ③ミニ講座:横浜市立大学所蔵の古文書を読んでみよ
--	--	--

			う 全2回、(各回共通)場所:研修室、時間:14:00～16:00、講師・阿諏訪青美(当館主任学芸員)、参加費:500円 (1)10/29「加藤清正書簡と豊臣秀吉禁制」、参加者 43 人 (2)11/19「戦国時代の吉見文書」、参加者 14 人、 ④ギャラリートーク(展示解説):全3回、(各回共通)場所・企画展示室、時間・14:00～(40分程度)、参加費・無料(企画展チケットが必要) (1)10/15、参加者 24 名、(2)11/5、参加者 33 名、(3)11/23、参加者 36 名 ⑤大鑑ワークショップ: (各回共通)場所・博物館 2F 廊下、時間・10:00-12:00、13:30-15:30、日時・(1)10/5、(2)11/5、※人数カウント無し ⑥武士のイメージをふくらまそう!歴史小説フェア: 場所・博物館エントランス、期間・10/12～10/23、時間・9:00-17:00、※人数カウント無し
企画展「活字 近代日本を支えた小さな巨人たち」 令和4年12月10日(土)～2月26日(日) 会期44日 開館日数38日	一般 1,000円 高大 700円 小中、市在住 65歳以上 500円	6,575人 会期81日 開催日数61日 1日あたり108人	近代日本における「知」や「学問」の普及・発展の「情報インフラ」ともいえる金属活字をテーマとした展覧会である。現在生活に欠くことのできない活字が、どのような経緯で伝来し、改良を加えられ、日常生活に用いられているのか、文字や活字についての理解が深められることを目的とし、当館が所蔵する小宮山博史コレクションを活用して、漢字活字の誕生から活字と印刷術の日本への伝来、その後の発展の歴史を丁寧に紹介した。 本展に合わせて公開を始めた「文字のかたちのデータベース 仮名字形一覧」は、同コレクションのうち学術的評価の高い「日本語活字見本帳」をDNP文化振興財団からの助成金を得てデジタルアーカイブ化したもので、今後の活字史研究や書体設計に寄与する成果である。出版物は、これまでの小宮山コレクションを含めた調査研究の集大成として最新の活字史研究の論考を掲載した展示図録及び、勉強社と連携して連続講座登壇者4名及びデータベース作成に関わった研究者5名が執筆した『書物学21号』を刊行した。 関連事業は、連続講座(全5回)、特別講演会、活版印刷を体験できるテキンで活版印刷(2回)、展示解説(3

			回)を実施し、活字への関心と理解の普及を図った。 図録 販売 610 冊 『書物学 21 号』 149 冊 関連事業 1 連続講座 全 5 回 ①12/11 (日)「木版印刷のゆくえ」 鈴木俊幸氏 (中央大学文学部教授) 47 人 ②12/17 (土)「日本の近代と活版印刷技術」 鈴木淳氏 (東京大学文学部教授) 38 人 ③1/22 (日)「明治初期平仮名活字への違和と順応」 岡田一祐氏 (北海学園大学講師) 50 人 ④1/28 (土)「書体を読む 活字文化とメディア表象」 正木香子氏 (文筆家) 44 人 ⑤2/11 (土)「ベントン彫刻機と日本の活字デザイン 三省堂の果たした役割」 雪朱里氏 (著述業) 87 人 全 5 回合計 266 人 2 特別講演会「七つの仮名書体」 2/5 (日) 鳥海修氏 (書体設計士) 105 人 3 ワークショップ「テキンで活版印刷」 2/12 (日) 42 人、2/18 (土) 26 人 4 展示解説 1/21 (土) 21 人、2/4 (土) 15 人、2/23 (木) 48 人
令和 4 年度 横浜市指定・登録文化財展 令和 5 年 1 月 24 日 (火) ～ 3 月 12 日 (日) 会期 47 日 開館日数 41 日	常設展観覧料	5,414 人 1 日あたり 132 人	令和 4 年度指定・登録文化財 5 件に、令和 3 年指定木造薬師如来立像 (栄区證菩提寺) を加え、実物とパネルで紹介した。このほか無形文化財に指定された能シテ方 (大坪喜美雄氏) 及び国選定保存技術となった甲冑修理 (西岡文夫氏) を紹介した。展示は、会場である常設展示室スタディサロンの特徴を活かしたケース配置と照明によって格調ある空間を構成し、出陳文化財の魅力を高めるとともに、無形文化財や保存技術については映像を設置して、内容を補完した。また、初めて展示解説ボランティアによる解説も行った。 研究講座 3 月 5 日 (日) 14 : 00 ～ 15 : 30 講堂 「横浜の薬師と地蔵 本展出陳資料を中心に」 講師花澤明優美 (当館学芸員) 参加人数 : 71 人
企画展「浮世の華 描かれた港崎」 令和 5 年 3 月 18 日	一般 800 円 高大	—	横浜開港資料館所蔵の港崎遊廓関係資料を中心に、横浜浮世絵に描かれた港崎遊廓と歴史資料をとりあげた展示を行った。これまで横浜の遊廓をテーマとした展

(土)～(開催中) 令和4年度開催日数 12日	600円 小中、市在住 65歳以上 300円		示は財団関連施設においても例はなく、そうした意味でも横浜の歴史を再検証するきっかけを提示する展示であるとする。本展は開港資料館における拠点計画に係るデジタルアーカイブ構築のための浮世絵資料の撮影および悉皆調査の一部成果でもある。本展は年度をまたぐ展示のため詳細の報告は次年度とする。 関連事業 ①ギャラリートーク 日時：4/1(土)、4/15(土)、4/29(土)、5/6(土) 各回14:00～(40分程度) ②企画展連携ガイドツアー【横浜シティガイド協会主催】「開港の社交場 港崎遊廓」 日時：4/23(土)、4/28(土) 9:30～13時頃 定員：各回40名程度 参加費：各回600円(ミニ講座・保険料等)
-------------------------------	---------------------------------	--	---



特別展「みんなでつなげる鉄道150年」ふれあいマルシェ



企画展「追憶のサムライ」展示会場風景

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者(人)					無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
4年度	14,142	3,227	732	1,918	20,159	22,669	42,828	154.2%	269日	159
3年度	8,808	4,638	630	1,146	15,222	13,084	28,306	97.2%	245日	116
2年度	11,973	6202	589	779	19,543	9,571	29,114	96.7%	228日	128

5 企画普及事業(定款第4条第1項第1号②)

市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらう各種の歴史講座やワークショップ、またコンサートなどの事業を、市民や地域のさまざまな団体と連携しながら取り組みました。実施にあたって

は、感染症対策を徹底しながら、対面をベースにオンラインやアーカイブ配信などを交え、多様なニーズに応えました。

(1) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
「横浜[出前]美術館」 4/16（土）	73 人	横浜美術館に共催し、同館のアウトリーチ事業である講演会を開催した 演題：「日本写真、事始め～幕末明治期の写真」 講師：松永真太郎氏（同館主席学芸員）
民俗学講演会（共催） 5/15（日）	28 人	相模民俗学会に共催し、令和4年に国の重要無形民俗文化財に指定された箱根宮城野の湯立獅子舞をテーマとした講演会を開催した 演題：「疫病退散の湯立獅子舞」 講師：松田香代子氏（愛知大学総合郷土研究所研究員）
横浜歴博もりあげ隊 歴史講演会（共催） 7/2（土）	146 人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「古代東国の地方官衙と交通 相模・武蔵を中心に」 講師：佐藤信（当館館長・東京大学名誉教授） 会場：講堂 参加料：500 円
ナイトミュージアム～ 夏の夜空を見上げたら～ 8/21（日）	19 人	閉館後の博物館と遺跡公園を探検し、普段とは異なる博物館の魅力を知ってもらう講座。本年は藤沢市湘南台文化センターこども館の協力のもと、展示しているりゅうぐうのサンプルレプリカや当日の天体の解説、天体望遠鏡の体験を閉館後の博物館内で行った（雨天のため野外見学は中止）。 参加料：大人 1,000 円 中学生以下 600 円
横浜古文書を読む会 特別講座（共催） 8/26（金）	81 人	横浜古文書を読む会に共催して、特別講座を開催した。 演題：「幕末、明治 御書院番士酒依氏」 講師：西川武臣氏（横浜開港資料館館長） 会場：講堂 参加料：無料
中山恒三郎家の公開 11/26・27（土・日）	682 人	横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開を行った。内部を公開した書院ではミニ展示「中山家伝来書画と川和の歴史」を実施し、諸味蔵では民俗資料と整理作業を公開した。
中山恒三郎家公開講座 11/27（日）	43 人	横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開に合わせ、関連事業として公開講座を実施した。 演題：「書画に足跡を残した松林圃の賓客」 講師：相澤雅雄氏（地域史研究家）
横浜歴博もりあげ隊 歴史講演会（共催） 12/10（土）	88 人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「院政 一天皇と上皇の日本史一」 講師：本郷恵子氏（東京大学史料編纂所所長）

		会場：講堂 参加料：500 円
横浜古代史料を読む会 講演会（共催） 12/24（土）	136 人	横浜古代史料を読む会に共催して、講演会を開催した。 演題「奈良時代の女性天皇」 講師：佐藤長門氏（国学院大学教授） 会場：講堂 参加料：500 円
はじめての古文書オン ライン 1/20(金)～3/10(金) 毎週金曜日 全8回	各回 18 人	横浜市域の資料を用いた、初心者向けの古文書入門講座をオ ンライン講座として開催した。卒業生 10 名が、OB 会「横浜古 文書を読む会」に加入した。 参加料：5,000 円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」 2/4(土)～3/18(土) 全4回	9 人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器を モデルにした土器づくり講座を行った。3/18（土）の野焼きは 雨天のため翌 3/19 に延期して実施した。 会場：工房・遺跡公園体験広場 参加料：5,000 円
特別講演会 2/5（日）	105 人	年に一度、博物館の開館日（1/31）前後に、各界の専門家を迎 えて行う特別講演会を実施した。今年度は、企画展「活字」の 関連企画を兼ねて開催した。 演題：「七つの仮名書体」 講師：鳥海修氏（書体設計士） 会場：講堂 参加料 1,000 円
バレンタインデー特別 企画 銅鏡チョコを作 ろう！ 2/12（日）	10 人	日吉矢上遺跡出土青銅鏡の雌型を食用シリコン型で作成し、 チョコレートを湯と見立てて、青銅鏡の踏み返し技法につい て学ぶ講座 会場：工房 参加料：2,000 円
ヨコハマアートサイト ラウンジ 2/15（水）	37 人	ヨコハマアートサイト事務局に共催し、紙芝居をテーマとし た文化を考えるアートサイトラウンジを開催した テーマ「紙芝居から見えてくるもの」 ゲスト：片岡直子氏（紙芝居文化推進協議会） 刈田均（当館副館長） 鈴江夏（横浜市港北図書館）
ホワイトデー特別企画 ドッキーを作ろう！ 3/11（土）	15 人	横浜市内出土の本物の縄文土器片を観察して作り方を学んだ 上で本物そっくりに作る土器片クッキー（ドッキー）を作る講 座 会場：工房 参加料：1,000 円
横浜北部文化フォーラ ム	102 人	都筑文化芸術協会に共催し、横浜北部地域の文化活動を考え るシンポジウムを開催した。

3/4 (土)		基調講演「地域と連携して運営する、磯子区民文化センターの文化活動」 講師：中村牧（磯子区民文化センター杉田劇場館長） パネルディスカッション 「地域からつくりあげる文化を目指して」 パネラー：中村牧（磯子区民文化センター 杉田劇場館長） 橋口豊（横浜市歴史博物館 学芸員） 岩室晶子（都筑文化芸術協会 副理事長）
講師等派遣		各区や地域の郷土史団体の講座・講演会等に職員を派遣した。 5/11(水)「学んで歩いて、初めて触れる青葉のあゆみ 2022 横浜の弥生時代」青葉区郷土史の会 6/24(金)「金沢の文化・ふれあいセミナー」金沢八景の自然と史跡を守る会 8/25(木)「縄文×音楽 DOKIDOKI ワークショップ」国立歴史民俗博物館 9/10(土)「つるみ歴史講座 見て聞いて鶴見再発見」鶴見歴史の会 9/10(土)「武州金沢藩米倉家と幕末維新」金沢区生涯学習”わ”の会 9/21(水)「青葉のあゆみ歴史探訪講座 2022 村絵図に見る青葉の村々」青葉区郷土史の会 11/12(土)「横浜金沢の大名一史料が語る激動の幕末・明治」NPO 法人横浜金沢文化協会 11/20(日)「縄文と弥生—考古学から見た暮らしと心」小田原市教育委員会 1/25(水)「かがやきクラブ都筑第 15 回歴史講座」都筑区老人クラブ連合会 2/4(土)「武士のイメージにみる 畠山重忠と旭区」横浜市旭図書館 2/19(日)「江戸時代の富士山噴火と港南区」港南の歴史を学ぶ会 2/26(日)「戸塚歴史講演会 戸塚区の中世 山内庄と鎌倉道」戸塚見知楽会 3/12(日)「金沢八景権現山公園の歴史講座」公益財団法人横浜市緑の協会

(2) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
--------	------	-----	------

当日参加型れきし工房 まがたま（滑石） （14 日 28 回）	147 人	滑石 白 400 円 滑石 ピンク 450 円	博物館 1 階のミュージアムショップでオリジナルものづくりキットを購入し、体験学習室で活動支援ボランティアのサポートを受けながら、まがたまづくりの体験ができる事業。 感染対策をしつつ安全に実施するため、日時限定で実施した。 5/3（火祝） 4 人 5/4（水祝） 3 人 6/18（土） 11 人 7/23（土） 11 人 7/18（日） 10 人 8/11（土） 16 人 8/19（日） 16 人 9/18（日） 24 人 10/10（月祝） 10 人 11/23（水祝） 8 人 12/24（土） 4 人 1/22（日） 13 人 2/11（土） 4 人 3/25（土） 13 人 参加者合計 147 人 会場：体験学習室
事前申込れきし工房 （年度通算 3 日 5 回）	48 人	各プログラム で異なる	小学生から大人を対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを遺跡公園内の工房にて開催した。今年度は万祝染、土偶づくりを開催した。 万祝染 8/6（土） 17 人 8/7（日） 21 人 参加料：1,500 円 小さな縄文土器づくり 10/30（日） 10 人（11/12 野焼き） 参加料：1,000 円
体験広場 野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、会が制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/8（日）、11/12（土）、3/19（日）
遺跡でワークショップ 1/22（日）	36 人	無料	都筑区のものづくり企業が連携した「メイドインつづき」に共催し、工房でモノづくりの廃材などを活用した竪穴住居づくりのワークショップを実施した。

（3）集客イベント等

項 目	開催日	参加者数	事 業 内 容
ラストサタデープログラム おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終土曜日 （12 日 72 回）	1,690 人	当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、毎月最終土曜日に複製紙芝居の実演を行った。（1 日当たり 6 回） 会場：歴史劇場

ラストサタデー プログラム バックヤードツアー	原則として 奇数月の 最終土曜日 (6日6回)	41人	学芸員の案内で博物館のバックヤードを見学するとともに、実物資料を間近で見たり触れたりするツアーを開催した。 5/28(土) 5人 7/30(土) 13人 9/24(土) 8人 11/26(土) 5人 1/28(土) 6人 3/25(土) 4人
チボリ兄弟舎紙芝居	8/13(土)・14(日) (2日6回)	209人	夏休み期間に、チボリ兄弟舎によるオリジナル紙芝居を上演した。
横浜・都筑・青葉秋の(大)文化祭 横浜歴博寄席	10/16(日)	60人 5人	横浜市文化観光局「地域の文化芸術活性化支援事業」の助成を得て実施した「都筑・青葉・港北 和の(大)文化祭」のプログラムのひとつである。港北地域ではなじみの薄い寄席を演出することで新たな価値の創出を促した。 参加料 1,000 円 動画のアーカイブ配信も実施した。アーカイブ配信料 800 円



横浜・都筑・青葉秋の(大)文化祭 横浜歴博寄席



メイドインつづき連携「遺跡でワークショップ」

(4) 地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、協賛事業、後援事業、受託事業等）

項 目	開催日	事 業 内 容
横浜歴博もりあげ隊バロックコンサート	7/10(日)	横浜歴博もりあげ隊に共催して、「バロックコンサート in 歴博 2022」を開催した。 演奏：湘南バロック・アンサンブル 参加料：200 円
子どもアドベンチャーカレッジ	8/17(水)	横浜市教育委員会が主催する「子どもアドベンチャーカレッジ 2022」に参加し、小学生向けにバックヤードの見学や博物館資料を見学するワークショップを実施した。
みなきたマルシェ	8 月以降の毎	みなきたマルシェ実行委員会に協力し、8 月から毎月最終土

	月最終土曜日	曜日（ラストサタデー）に、シンボルロードと博物館コルネードで「みなきたマルシェ」を開催した。
映画「杜人」上映会	9/4（日）	「杜人」上映実行委員会に共催し、映画「杜人」上映会を実施した。
都筑・青葉・港北 和の（大）文化祭「緞帳を楽しむ」	9/10（土）	横浜市文化観光局「地域の文化芸術活性化支援事業」の助成を得て実施した「都筑・青葉・港北 和の（大）文化祭」のプログラムとして、横浜市港北公会堂にて、同公会堂の「緞帳を楽しむ」講座を開催した。
都筑・青葉・港北 和の（大）文化祭「和太鼓をたたこう！」	9/23（金祝）	横浜市文化観光局「地域の文化芸術活性化支援事業」の助成を得て実施した「都筑・青葉・港北 和の（大）文化祭」のプログラムとして、市民ギャラリーあざみ野にて、「和太鼓をたたこう！」を開催した。
「杜人」ワークショップ	9/25（日）	「杜人」上映実行委員会に共催し、遺跡公園及び都筑民家園で「杜人」ワークショップを実施した。
（公財）かながわ考古学財団による出土品等展示会・発掘調査成果発表会	9/27～10/2・10/1	令和3年度に（公財）かながわ考古学財団が、発掘調査を実施した遺跡の出土品等の展示会を当館2階廊下で開催した。また講堂では発掘調査成果発表会を行い、神奈川県内における考古学の最新情報を広く市民へ公開した。
ちいさい秋みつけた ～よこはまゆかりの作曲家 中田喜直生誕百年に向けて～	11/3（木祝）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 令和5年に生誕百年を迎えるよこはまゆかりの作曲家、中田喜直の特別展プレイベントとして、エントランスホールでコンサートを実施した。また当日の演奏を録画し、アーカイブ配信を行った（2022/11/20～2023/10/1）。 ソプラノ：三上道子・荒井恵美 ピアノ：菅原達郎 ゲスト：中田幸子 ナビゲーター：宮地里美 参加費2500円 参加者65名。（アーカイブ配信1,500円）
関家住宅の公開	11/12（土）	横浜市教育委員会生涯学習文化財課からの委託を受け、国指定重要文化財「関家住宅」の公開を行った。当館学芸員および横浜開港資料館調査研究員が観覧者へ解説を行った。参加者178人。
港北地域学講座第1回の実施	11/26（土）	港北区役所と連携し、港北地域学講座第1回「横浜市歴史博物館で学ぶ「よこはま縁むすび講中」って何？」を、当館学芸員を講師に開催した。
お城 EXP02022 への参画	12/17（土）～18（日）	お城エキスポ実行委員会が主催した「お城 EXP02022」に、港北区役所及び埋蔵文化財センターと協力し、昨年の小机城発掘調査成果を含めた横浜市域の中世城郭のパネル展示や御城印の販売などを行った。
横浜スカーフ資料の展示会開催	12/3（土）～1/15（日）	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜スカーフ資料のミニ展示「YOKOHAMA meets Africa～横浜スカーフにアフリカの風～」を、企画・監修：K G U横浜スカーフ

		研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学、で実施した。
鶴見川流域夢交流会・鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式の開催	2/18（土）	鶴見川流域水協議会及び鶴見川流域ネットワーキングに共催・連携し、鶴見川流域の学習成果を発表する「鶴見川流域夢交流会」と、鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式を開催した。
都筑図書館及び都筑区役所共催展示及び講座	2/21（火）～ 3/13（月）	都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「ある地侍の戦国から江戸時代」と題した展示及び都筑区郷土講演会を都筑図書館で開催した。3/11（土）の講演会には 59 名が参加した。
ドラマリーディングライブ「奇跡の歌姫 渡辺はま子」	3/25(土)	都筑文化芸術協会に共催し、都筑区制 30 周年プレイベントとなる横浜在住の女優五大路子氏によるドラマリーディングライブ「奇跡の歌姫 渡辺はま子」を開催した



みなきたマルシェ（コルネード）



子どもアドベンチャーカレッジ（バックヤード）



ちいさい秋みつけたコンサート（エントランス）



ドラマリーディングライブ「奇跡の歌姫渡辺はま子」（講堂）

（５）かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある竪穴住居について、定期的・長期的なメンテナンスを行うため、「材

料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成 29 年度から事業を開始した。平成 30 年度からは文化庁の助成金を受け、実施してきた。

令和 3・4 年度は、「よこはま縁むすび講中」の活動のひとつとして以下の事業を実施した。

項 目	実施日	参加者数	事 業 内 容
第 1 回	6 月 19 日	4 名	大塚遺跡にて Y74 号住居の修繕
第 2 回	7 月 30 日	5 名	茅束製作
第 3 回	8 月 27 日	7 名	茅束製作
第 4 回	9 月 24 日	0 名	荒天により中止
第 5 回	10 月 22 日	6 名	三殿台遺跡での修繕
第 6 回	11 月 23 日	20 名	茅葺屋根について講座
第 7 回	12 月 10 日	8 名	朝霧高原での茅刈
第 8 回	1 月 21 日	5 名	大塚遺跡にて Y74 号住居の修繕
第 9 回	2 月 5 日	5 名	大塚遺跡にて Y74 号住居の修繕



茅葺き屋根プロジェクト Y74 住居の修繕

(6) ボランティアの活動支援

項 目	事 業 内 容
展示解説ボランティア	市民ボランティアによる小中学校団体及び一般来館者への、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドは、コロナ対策をした上で、活動を行った。学校団体へのガイドは、一日一校を原則として可能な限り小グループに分けて対応をした。 ①ガイド登録者数：90 人 ②基本ガイド時間 遺跡公園 小学校 6 年団体 約 45 分間 常設展 見学者の要望に応じて実施
活動支援ボランティア	昨年度に引き続き、感染対策をしつつ安全に実施する当日参加型れきし工房の補助のほか、本年は鉄道展の H0 ゲージ運転および監視（於：スタディサロン）、また 4 年振りに開催されたセンター北まつりにもご協力いただいた。 ①登録者数：34 人 ②活動実績

	・れきし工房 まがたま（滑石） 4/24（日）4人、5/3(火)・4(水)7人、6/18（土）5人、7/23（土）2人、8/11（木）人、8/19(金)人、10/10（月）5人、11/23(水)3人、12/24(土)3人、1/22(日)3人、2/11(土)4人、3/25(土)6人 ・横浜市ろう特別支援学校 まがたま（滑石） 6/16(木) 2人 ・鉄道展 H0 ゲージ運転および監視 4/1～9/25 のべ317人 ・センター北祭り 3/18(土)3人、3/19(日)6人 合計 370人
ボランティア総会の実施	展示解説ボランティアおよび活動支援ボランティアの合同のボランティア総会を、上半期分として11月4日に実施し、下半期分として3月26日に実施した。
ボランティア研修の実施	今年度はボランティア研修として、上半期には6/16に横浜さいかちの会と合同の講演会「磐井の戦いと東アジア」（講師・佐藤信館長）を実施した。参加者は63名。また2022年寅年薬師の開帳(4/1から約一ヶ月)について開帳する寺院や拝観の順番を紹介し、ボランティア個人や有志グループでの任意の巡拝を提案した。参加者には写真やコメントを寄せてもらい、年度末に常設展示室デジタルサイネージで紹介した。下半期には11/19実施のよこはま縁結び講中イベントである「アニメ：小机の重政」上映会、11/23実施の「関東大震災からの復興建築-金子里吉さんの記録-」講演会(講師・岸上興一郎氏)への参加を促し、また郷土史団体連絡協議会イベントである11/22実施の「古代の「東海道」はどこか?-古代国家の「官道」と横浜市域-」講演会(講師・平野卓司氏)への参加も可能とした。さらに令和4年度横浜市指定登録文化財展で実物資料の解説をするためのガイド研修(展示解説ボランティアの希望者のみ)を行った(参加者56名)、会期中にスタディサロンでの解説を実施した(ガイド実施期間:2/3～3/12)。



展示解説ボランティア活動（常設展）



活動支援ボランティア活動（センター北まつり）

展示解説ボランティア活動実績

項 目		令和 4 年度		令和 3 年度		令和 2 年度	
		遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡	常設
活動実績	ガイド実施日数（日）	305	305	292	305	88	130
	解説回数（回）	461	368	458	287	169	145
	1 日平均解説回数（回）	1.5	1.2	1.6	0.9	2.6	1.1
	参加者数（人）	8,916	2,570	5,206	743	1,873	342
	団体対応（件）	211	24	61	1	20	1
	団体のうち学校数（校）	199	0	52	0	17	0

（7）学校連携事業の実施

令和 3 年度に引き続き、今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から学校団体見学の受け入れを制限したが、人数的に可能な場合は複数校を受け入れるなど、弾力的な対応を行った。小学校 4 年の「吉田新田」や小学校 3 年の「昔のくらし」の訪問授業、金沢区から委託を受けた訪問授業は引き続き実施した。小学校 6 年では、博物館見学事前訪問授業に加え、横浜市教育委員会生涯学習文化財課と連携した「埋蔵文化財訪問授業」を実施した。さらに、小学校 3 年の「昔のくらし」の授業の資料となる動画コンテンツの作成、配信を行った。

事業名／開催日	事業内容等
6 年生向け訪問授業 「博物館見学事前訪問授業」 延べ 35 校 3,288 人	中川西小 94 人、新羽小 72 人、新鶴見小 121 人、帷子小 43 人 すみれが丘小 48 人、南瀬谷小 127 人、都田西小 194 人、 鳥が丘小 91 人、西寺尾小 59 人、川崎市立今井小 114 人、 鎌倉市立山崎小 116 人、阿久和小 14 人、美しが丘小 77 人 田奈小 97 人、南神大寺小 51 人、川和小 83 人、下和泉小 69 人 東品濃小 88 人、綱島小 100 人、大道小 51 人、生麦小 58 人、 洋光台第一小 97 人、潮田小 130 人、日吉南小 132 人、 飯島小 90 人、鶴見小 118 人、品濃小 115 人、市場小 258 人、 森の台小 156 人、鴨居小 72 人、品濃小 38 人、峯小 90 人、 星川小 75 人、大田区立南六郷小 60 人、菅田の丘小 90 人
6 年生向け訪問授業 「埋蔵文財訪問授業」 延べ 12 校 1,164 人	下和泉小 69 人、上瀬谷小 94 人、菊名小 147 人、 都筑小 124 人、戸部小 60 人、港南台第三小 52 人、 大曽根小 127 人、川和東小 171 人、本郷台小 84 人、 中尾小 64 人、荏田小 50 人、本郷小 122 人
「吉田新田の開発」 4 年生向け訪問授業 延べ 42 校 3,683 人	西富岡小 109 人、根岸小 124 人、 境木小 77 人、港南台第一小 103 人、 別所小 83 人、西鎌倉小 120 人、永田小 100 人、一本松小 54 人 茅ヶ崎台小 120 人、上瀬谷小 64 人、つづきの丘小 66 人、

	一本松小 60 人、西前小 90 人、幸ヶ谷小 116 人、都田西小 155 人 永田台小 60 人、鴨志田第一小 50 人、六ッ川小 56 人、 篠原西小 105 人、逗子市立逗子小 123 人、常盤台小 125 人、 茅ヶ崎小 142 人、小田小 114 人、平戸台小 43 人、 港北小 143 人、大道小 52 人、芹が谷小 47 人、新橋小 102 人 西寺尾第二小 104 人、小机小 109 人、八景小 60 人、 荏田東第一小 66 人、桂小 56 人、藤塚小 46 人、品濃小 110 人、 不動丸小 98 人、緑園学園 128 人、小雀小 67 人、 みなとみらい本町小 73 人、牛久保小 83 人、鉄小 32 人、 神奈川小 51 人
「昔の暮らしと市の広がり」 3 年生向け訪問授業 13 校 1,181 人 ※師岡小は 2 日にわたって実施	不動丸小 99 人、つづきの丘小 48 人、浜小 112 人、 永田台小 64 人、深谷小 42 人、浅間台小 49 人、 根岸小 108 人、上末吉小 86 人、新田小 74 人、新石川小 129 人 師岡小 227 人、平沼小 107 人、根岸小 36 人
開港記念日講話 3 校 1,632 人	上瀬谷小 388 人、新吉田第二小 484 人、森の台小 760 人
「廻り地蔵について」 年中行事 4 年生向け訪問授業 1 校 148 人	都田西小 148 人、
学校資料室への訪問授業等 2 校 225 人 ※森の台小 2 日にわたって実施	市ヶ尾小 113 人(鉄小郷土資料室にて実施) 森の台小 112 人(川和小郷土資料室にて実施)
金沢区委託 「むかし体験」訪問歴史授業 12 校 756 人	金沢小 72 人、釜利谷南小 48 人(於大道小)、並木第一小 52 人、 能見台小 66 人、西富岡小 96 人、朝比奈小 42 人、小田小 88 人、 大道小 48 人、高舟台小 55 人(於大道小)、西金沢学園 82 人、 並木第四小 41 人、文庫小 66 人(於大道小)、
「関東大震災と情報」 5 年生向け訪問授業 1 校 135 人	緑園学園 135 人
「鉄道 150 年と私たちのまち」 4 年生向け訪問授業 1 校 102 人	北方小 102 人
中学校「職業講話」博物館学芸員 のしごと 1 校 40 人	中学校 1 年生を対象に学芸員の仕事について講演した。 矢向中 40 人
小学校「職業講話」博物館学芸員 のしごと 1 校 55 人	小学校 6 年生を対象に学芸員の仕事について講演した。 二ッ谷小 55 人
土器づくり指導	折本小学校 3 年生 総合学習
街頭紙芝居の実演と質疑応答	中尾小学校 6 年生 総合学習 69 人
総合的な学習 出前授業	荏田西小学校 6 年生 「荏田のまちの歴史」
特別支援学校への協力	横浜市ろう特別支援学校 まがたま(滑石)作りの実施

	6/16(木) 4人
動画コンテンツの作成・配信	3年生「昔の暮らしと市の広がり」に関連した動画の作成 「昔の道具とくらしのうつりかわり」 ・炊飯編 ・暖房編 「道具の紹介」 ・かまどとはがま・電気釜・ジャー炊飯器・七輪・いろり・自在鉤 ・火消壺・あんか・台十能・火鉢・やぐら炬燵・湯たんぽ ・火吹きだけ・薪 1月に横浜市の小学3年生全員に紹介リーフレット配付 1月中旬より動画配信開始、横浜市歴史博物館ホームページに動画のリンクを掲載 3月末までの動画視聴回数 59800回
横浜市教育委員会博物館活用研修への協力	7月29日に市立学校教職員を対象にした博物館活用研修を実施し、収蔵資料を活用した研修を行った。
教職員対象の研修	新型コロナウイルス感染症流行により、密を防ぐために「吉田新田の開発」研修会は見合わせた。 このほか、横浜市小学校社会科研究会区研究会等や各学校からの要請により個々の内容に応じた研修会を行った。 6年歴史学習研修会 都筑小2人 6年埋蔵文化財研修 西区社会科研究会12人、港南区社会科研究会20人 5年情報と私たち研修 緑園学園小2人 4年吉田新田の開発研修会 金沢区社会科研究会24人、綱島小2人、永田小3人、 一本松小4人、永田小3人、六ッ川小2人、品濃小3人、 藤塚小1人、芹が谷小2人、緑園学園小1人、鉄小1人 4年横浜市電の歴史研修 北方小4人 3年市域の広がり研修 西が岡小2人 3年昔の暮らし火起こし研修 上末吉小3人 博物館研修 市小学校長会学校経営部会6人 延べ 3区小学校社会科研究会、1小学校校長会部会、15小学校 97人

中学校社会科研究会	中学校社会科作品展は令和4年12月10日（土）から令和5年1月11日（水）まで常設展示室内スタディサロンで開催した。また中学校社会科研究発表会を令和4年12月10日（土）に開催した。
神奈川県高等学校文化連盟	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県社会科研究発表大会を実施し、審査員を派遣した。大会は博物館講堂で3年ぶりに対面で実施し、参加者は131人だった。 大会：11/13（日）
川和高校特別授業の受け入れ	考古学に関する特別授業を館内で実施した。 3/14
東海大学と博物館の協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習	博物館が整理を進めている伊藤宏見旧蔵資料群の掛け軸を対象とし資料整理の実習を実施した。当該資料群の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、文化財資料の活用事業に関与することで、地域博物館の文化創造や地域社会における文化財資料の活用に係る新たな「学びの場」の創出をめざす活動を実施した。同様に東海大学教諭資格センターは横浜市歴史博物館に係る文化財資料（伊藤宏見旧蔵資料群）の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、また一市民として文化財資料の保存活用事業に関与することで、大学と地域博物館の協働による新たな「学びの場」創出をめざすことを目的とした。実施日は6/28(火)、7/18(月)、9/13（火）〔資料整理実習〕
横浜英和学院 永井記念歴史展示室新設の助言・監修	横浜英和学院から依頼を受け、学院内に開設する永井記念歴史展示室の展示内容や資料、また設備についての助言や監修を行った。展示室は令和4年10月28日にオープンした。
東海大学地域史演習の受入	東海大学からの依頼を受け、地域史演習を当館で実施した。 8/5（金）14名
大学からの博物館見学の受入	学芸員課程等の大学の専門科目の一環として博物館見学を受け入れた。 4/23 鶴見大学、4/29 学習院女子大学、5/21 学習院大学、6/11 関東学院大学、6/25・11/20・11/26 横浜国立大学、11/16 日本大学、11/26 青山学院大学、12/10 神奈川大学、12/17 國學院大学大学院
学校団体の博物館見学申込システムの活用	令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1日あたりの受け入れ校数の基準を設けていたが、その基準内で可能な限り学校団体を受け入れられるよう博物館見学申込システムを活用した。



中学校社会科作品展（常設展）



中尾小学校紙芝居総合学習（歴史劇場）

学校団体利用の推移

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
学 校 数（校）	159	111	47

うち小・中学校利用数

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
学校数（校）	125	86	46
児童・生徒数（人）	10,175	6,480	3,791

（8）関連団体との協働事業

市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う関連団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施した。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体、また博物館の支援、博物館との協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」は、博物館と連携して定期的な活動を行っている。コロナ禍の影響で活動制限を受けつつも、今年度はアフターコロナを見据えた活動を実施した。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	・原則として毎月2回の講座の開催 ・有志による「下読み会」の実施。 コロナ禍に対応し、オンライン会議システムを利用し、リモートで実施。武州金沢藩の目付日記（明治4年）の解説を行い、紀要にて成果を報告した。 ・特別講座の実施 8/26（金）当館講堂 演題：「幕末、明治 御書院番土酒依氏」 講師：西川武臣氏（横浜開港資料館館長） 会場：講堂 参加料：無料 参加者：81人

「横浜古代史料を読む会」との協働	・『続日本紀』講読講座の開催 講師：平野卓治氏（日本大学教授） 5/17、7/12、8/23、9/27、11/15、1/17、2/14、3/28 ・12/24（土）講演会「奈良時代の女性天皇」の実施 講師：佐藤長門氏（國學院大学教授）
「横浜縄文土器づくりの会」との協働	・10/23 調査・研究用の土器製作 ・10/30 れきし工房小さな縄文土器づくり ・2/4・18・19、3/19 実験講座土器づくり教室 ・3/11 ドッキーを作ろう！ ・土器づくりの会土器制作は年間3回 4/9・10、9/3・4、1/14・15 ・5/8、11/12、3/19 土器づくりの会制作土器の野焼き
「横浜さいかちの会」との協働	・さいかち古代史料講読講座（『日本書紀』購読） 4/19、6/21、8/16、9/13、10/18、12/20、2/21、3/14 ・講演会「磐井の戦いと東アジア」 ※展示解説ボランティア研修を兼ねる 6/16（木） 講堂 講師：佐藤信（当館館長）参加者 42 人 ・さいかち中世史講座「中世初めの甲冑製作について」 11/11（金）研修室 講師：豊田勝彦氏（甲冑製作者）参加者 26 人 ・どんぐりカフェ出前ガイド「写真で巡る都筑民家園」 5/17 荏田 3 丁目自治会館
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・講演会「古代東国の地方官衙と交通 相模・武蔵を中心に」 7/2（土）講堂 講師：佐藤信（当館館長） 参加者 146 人 ・講演会「院政 一天皇と上皇の日本史ー」 12/10（土）講堂 講師：本郷恵子氏（東京大学史料編纂所所長） 参加者 169 人 ・コンサート「バロック・コンサート in 歴博 2022」 7/10（日）講堂 演奏：湘南バロックアンサンブル 参加者 122 名 ・都筑区民活動センター発行「縁ジン plus vol32」への取材協力及び掲載 ・つづき人交流フェスタへの参加 3/3（金）～3/8（水） 都筑区役所 博物館の紹介展示、チラシ配布、缶バッジワークショップなど ・二次元コードを利用した博物館アンケートの実施

（9）実習・研修の受け入れ

博物館実習は感染症対策を徹底しながら実施した。中学校の職場体験については申込がなかった。

項 目	事 業 内 容
-----	---------

博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 10名 6日間（7～10月）
フェリス女学院大学インターンシップの受け入れ	フェリス女学院大学キャリア実習として学生を1名受け入れ、実習指導を行った。 20日間（2/1～3/10）
高校インターンシップの受け入れ	・博物館に興味を持つ県立高校の高校生を4名インターンとして受け入れた。4日間（8/2～5） ・日々輝学園2年生4名を受け入れた。2日間（11/1・2）
中学校職場体験の受入	森村学園中等部3名 7/27・28 南中学校3名 10/27 丸山台中学校4名 12/15
高校教員5年次研修	県立高校教員の5年次研修として教員を1名受け入れた。 2日間（8/6・21）
横浜市立学校教員「企業等前期中堅教員派遣研修」（小学校教員）	市立小学校教員を1名受け入れた。 1日間（11/2）

(10) 広報広聴

項 目	事 業 内 容
広報	展覧会情報のほか、新型コロナウイルス感染拡大による開館情報・感染防止対策等の広報を行った。 ・各種チケットサービスを利用した前売券販売によるPR ・当館ウェブサイト、SNSによる広報、情報発信 ・館外情報サイトへの情報提供 ・広報誌「博物館 NEWS」の発行 ・全国博物館施設、市内公共施設、学校、関係機関に向けた広報 ・マスコミ各社への情報提供 ・リリース配信サービス会社との年間契約による継続的発信 ・博物館近隣の広報案内看板への掲示 ・センター北駅1番出口広告掲示板（8ヶ所）への掲示 ・広報よこはま等の市広報誌への情報掲載 ・新聞・ラジオ・雑誌等マスコミやSNSへの有料広告（「KADOKAWA ぶらぶら美術・博物館」ほか） ・ラジオ番組への番組コーナー提供 ・センター北まつりでのPR
展覧会特設サイトの設置と情報発信	・特別展「みんなでつなげる鉄道150年」 ・企画展「追憶のサムライ」

	・企画展「活字」
市民ニーズの把握	企画展アンケートをウェブフォームで実施
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、また財団他施設での講演会等の受講生募集にあたって、インターネットを利用した催事申込システムを運用した。
リーフレット類作成	歴史博物館催し物案内（年2回） 横浜市新規転入者向け案内チラシ

(11) 出版

博物館ニュースは 53 号・54 号を刊行した。資料目録、紀要、調査研究報告については pdf による web 公開に変更した。

項 目	事 業 内 容
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュースNo.53 号・54 号 横浜市歴史博物館資料目録 第 31 集 PDF データ公開 横浜市歴史博物館紀要 第 27 号 PDF データ公開 横浜市歴史博物館調査研究報告 第 19 号 PDF データ公開

6 よこはま縁むすび講中（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

よこはま縁むすび講中は、当館が事務局となり、文化庁「令和 4 年度 Innovate MUSEUM 事業地域課題対応支援事業」の助成を受けて、かつて港北区だった横浜北部 4 区（港北・緑・青葉・都筑）の地域文化遺産をつなぐ取り組みとして継続して実施しました。

地域が内包する文化・歴史・自然・産業・商業・公共施設・民間施設などのあらゆるモノ・コトを発信することを目的として、当館が中核館となり、（公財）大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野で構成。このほか協力団体として YMBL（横浜メディアビジネス総合研究所）、横浜市交通局、森ノオト、横浜国立大学大原研究室が加わり、①エリアの横断と②分野の横断に加えて、情報の集約と発信（見える化）を強く意識した活動を実施しました。

項 目	事 業 内 容
かやぶき屋根プロジェクト	横浜市歴史博物館が企画し、6/19 から 2/5 にかけて 9 回の活動日を設け（うち 1 回中止）、市民ボランティアとともに大塚遺跡の茅葺建物のメンテナンスや静岡県朝霧高原での茅刈を行った。
4 区をめぐる小机城ガイドツアー	（公財）大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会が連携し、小机城を理解するガイドツアーを、10/30 小机城コースⅠ、11/27 小机城コースⅡ、12/11 篠原城コース、1/22 茅ヶ崎城コース、2/26 古城の歴史講演会として開催した。
「小機の重政」4 区巡回上映会	11/3、11/19、11/28、12/3、2/5 実施 「小機の重政」をテーマとした紙芝居や漫画映像劇、アニメーション

	ンを上映した。
秋の陣～チャンバラ合戦＋小机城クエスト	12/4 に小机城址公園市民の森東郭広場にて実施。 身体を動かして楽しみながら地域の歴史に触れてもらうことを目的として、大人も子どもも一緒に楽しめるチャンバラ合戦を実施した。
あざみ野カレッジ 横浜市所蔵カメラ・写真コレクション ステレオ写真探訪	2/11 実施 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの中から選りすぐりのステレオ写真を紹介した。
外国語を母国語とする親子フリーズゾーン	2/14 実施 日本語文章に慣れていない外国語を母国語とする方々のために「外国語を母国語とする親子フリーズゾーン」を実施した。外国語を使用して親子で体験できるプログラムを開催し、同時に外国語を母国語とする近隣住民の要望を調査した。
地域の土を使った絵画の巡回展示	大倉山記念館：11/3～11/6 横浜市民ギャラリーあざみ野：1/8～1/27 令和3年度に「よこはま縁むすび講中」の活動で制作した土絵3点を作家による解説とともに修復・加筆し、大倉山記念館および横浜市民ギャラリーあざみ野で展示した。
リサイクルアート小学校ワークショップ	1/18・19 日実施 73 名（5 年生 2 クラス） SDGs の観点からリサイクルの思想が広がりつつある。リサイクルアートを通じて社会と個人の関わり方を子どもたちと考える講座を開催した。作品の素材となっているのは送配電システム会社の工業部品（横浜市青葉区の前河原電工パワーシステム提供）で、電柱の上や大型の送電線の上に設置され、普段は目にしない。部品に実際に触れ、それを作品にすることで、目に見えないインフラが自分たちの社会を支えていることを実体験できるプログラムである。
かやぶき屋根プロジェクト	本報告書 5-(5) 参照
地域文化圏醸成事業	①地域の活動団体・ユニークベニューの洗い出しおよびリスト作成 各区の地域資源について、活動団体や史跡、交流のきっかけとなるイベントなど、横浜国立大学大原研究室の協力のもと調査した結果をまとめた資料を制作した。 ②地域と本事業をより深く知るためのコラム記事、動画の制作 地域情報を発信するウェブメディアである「森ノオト」による 4 本の記事を制作した。またコラム記事公開を告知するテレビ CM 用の動画を制作した。 ③ウェブページの制作および公開 ①、②の情報およびよこはま縁むすび講中各イベント情報をウェブページとして公開した。

	①http://yokohama-enmusubi.jp/report/resource-survey.html ②http://yokohama-enmusubi.jp/report/yokohama-culture-series_01.html http://yokohama-enmusubi.jp/report/yokohama-culture-series_02.html http://yokohama-enmusubi.jp/report/yokohama-culture-series_03.html http://yokohama-enmusubi.jp/report/yokohama-culture-series_04.html ④メディアと連携した情報発信 博物館機能の強化として、神奈川・横浜の地域メディアである tvk などを利用して「よこはま縁むすび講中」の情報発信を行った。コラム記事公開にあわせて、スポット CM を放映した。
--	---

7 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。また事業に用いる PC 及びプロッターを更新しました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数 2,136 件
映像資料の公開	「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」を利用して、常設展示室内で、利用者のモバイル端末を用いた横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開した。 れきし工房「あじろ編み小物入れ」、「勾玉キット かっ石」の作り方動画を YouTube チャンネルにて公開した。 小学校6年生の歴史学習に関連した「横浜の遺跡見学 大塚・歳勝土遺跡公園」「横浜の遺跡見学 常設展示室 原始Ⅱ」の動画を YouTube チャンネルにて公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信や、サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数 304,823 件
ツイッター等SNSを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用した博物館展示情報や解説、催し物など多岐にわたる活動情報を発信した。 ツイート数 206、ツイートインプレッション 727,815、プロフィールへのアクセス 175,518、フォロワー増 829
デジタルアーカイブの公開	調査研究の成果である小宮山博史氏コレクションの「日本語活字見本帳」をデジタルアーカイブ化した「文字のかたちのデータベース 仮名字形一覧」を博物館のHPで公開した。

情報機器の更新	画像処理やパネル作成等に用いる PC 及びプロッターについて更新した。
---------	-------------------------------------

8 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、来館者の検温・手指消毒の徹底、定期的な館内消毒、各受付の亚克力板の設置、各種掲示を作成し、日本博物館協会のガイドラインに則り運営しました。

（1）来館者対応業務

市民サービスと効率性の向上を図るため、令和2年度に導入したキャッシュレス決済の運用を引き続き行った。来館者の接触機会の低減を目的に導入した日時指定オンラインチケットは利用状況を鑑み、運用を取り止めた。

事業名／開催日	事業内容等
キャッシュレス決済	利用者の利便性向上をさせるため観覧料金の決済手段として現金の他にクレジットカードや交通系 IC カードにも対応出来るレジを導入した。キャッシュレス決済の導入が来館者と受付スタッフの接触機会を低減させ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にもつながった。
日時指定オンラインチケット	来館者の接触機会の低減を目的に導入した日時指定オンラインチケットは、利用状況を鑑み、運用を取り止めた。

（2）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 講堂・研修室の貸出については、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、利用人数の制限を解除した。 ＜主な修繕＞ ・ITV 設備 監視カメラ交換工事（2 台） ・空気調和機 減圧弁・二方弁・マグネットスイッチ交換工事 ・大塚・歳勝土遺跡公園 門扉改修工事 他

（3）講堂・研修室利用の推移

項 目		令和4年度	令和3年度	令和2年度
講 堂	利 用 者 数（人）	5,134	4,937	2,527
	利 用 件 数（件）	58	59	33
	うち有料貸出件数（件）	22	28	29
研修室	利 用 者 数（人）	2,239	1,509	368
	利 用 件 数（件）	111	86	39

	うち有料貸出件数（件）	81	53	25
--	-------------	----	----	----

（４）歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		令和４年度	令和３年度	令和２年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設（人）		40,966	40,242	40,593
内 訳	大 塚 遺 跡（人）	37,081	39,142	39,057
	工 房（人）	3,885	1,100	1,536

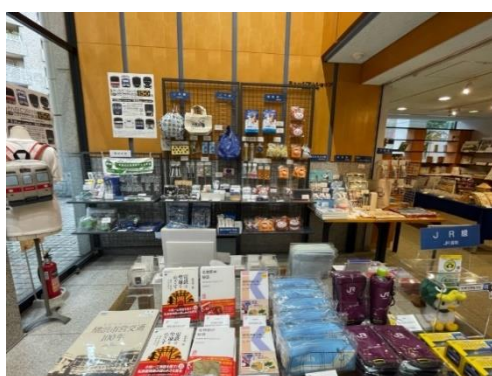
９ 収益事業（定款第４条第１項第２号）

ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。

ミュージアムショップでは企画展ごとに関連コーナーを設置し、本年は特に鉄道 150 年に関連した各種委託商品を豊富に揃え、観覧の記念となる商品を販売しました。また、収蔵資料をモチーフとしたオリジナル商品を多数開発しました。オンラインショップでは取扱商品を増やし、セット販売など利用しやすい工夫しました。駐車場は管理会社へ委託し、キャッシュレス対応など利便性の向上を図りました。

（１）ミュージアムショップ

- ・企画展ごとに、クリアファイルやキーホルダー、ポストカードなど、観覧記念となるオリジナルグッズを開発・販売した。
- ・特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年」では、展示に協力いただいた市内鉄道 10 社のオリジナルグッズを揃え、企画展示室だけでなく全館を会場とした当特別展の一環としての店舗づくりを目指した。売上増につながり、年間売上 1700 万円を初めて超過することが出来た。
- ・店頭やオンラインショップで企画展図録などの刊行物のほか、絵葉書、クリアファイル、れきし工房キットなどのオリジナル商品の販売を行った。



特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年」開催時店頭



サムライ展オリジナルキーホルダー



浮世の華展オリジナルクリアファイル 2 種

（２）駐車場

来館者の利便性を図るべく、歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

近隣の商業施設の増加に伴い利用が減少している状況を改善するため、昨年度から駐車場管理会社に委託し、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとした。これにより費用超過となって

いた状況を解消することが出来た。

(3) 自動販売機

施設利用者の利便を図るため、交通系 IC カード等のキャッシュレス決済に対応した飲料の自動販売機を設置した。

＜各事業の推移＞

項 目	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
ミュージアムショップ売上（千円）	17,403	14,184	15,805
自動販売機手数料収入（千円）	114	64	57

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
1 資料収集保管事業	資料の寄贈・寄託・購入により資料を収集し、資料の整理・保管・データ入力を進めた。また昨年横浜市教育委員会に移管された横浜スカーフアーカイブ資料の閲覧公開を開始したほか、資料 11 件を他機関に貸し出し、33 件の熟覧に対応した。資料の燻蒸や IPM など、適切に資料の保全を進めた。	A
2 調査研究事業	基礎資料研究 3 本、テーマ研究 4 本、市民共同研究 3 本、連携調査研究 3 本のほか、令和 5 年度実施予定企画展の調査や資料の基礎整理を予定通り進めた。調査成果は調査研究報告に寺尾小学校郷土資料室の目録を公開し、紀要では 4 つの資料紹介や翻刻を掲載した。また仮名字形一覧データベースを HP で公開した。	A
3 常設展事業	上半期は特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年 鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり」の展示コーナーとして、下半期は「中学校社会科作品展」や「令和 4 年度横浜市指定・登録文化財展」を開催し、常設展の活性化を図った。また来館者自身のスマホやタブレットを利用した 4 か国語対応多言語解説アプリや、Q&A（歴史クイズ）、市域文化財・歴史関係映像視聴システムを提供したほか、デジタルサイネージ番組を増やし、多様な利用に向けた取り組みを実施した。	A

4 企画展事業	特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年 鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり」、企画展「追憶のサムライ ー横浜・中世武士のイメージとリアルー」という鉄道開業 150 年と大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」に合わせた時機に応じた展覧会と、財団で 2018 年から取り組んできた小宮山博史活字関係コレクションの調査研究の集大成となる企画展「活字 近代日本を支えた小さな巨人たち」、令和 4 年度横浜市指定・登録文化財展、そして横浜開港資料館の拠点計画で進めているデジタルアーカイブ構築の成果の一部を活用した企画展「浮世の華 描かれた港崎」を開催した。鉄道展は市内鉄道事業者 10 社をはじめとする多様な主体との連携により多岐にわたる関連事業を実施してコロナ禍にもかかわらず賑わいをもたらし、地道な調査研究から生まれた中世武士や活字の展示はこれからの学界に寄与する成果を上げた。また新指定の文化財や市所蔵の横浜浮世絵の紹介など、市民の多様な生涯学習のニーズに応えた。	S
5 企画普及事業	感染症対策を徹底しながら、さまざまな団体と連携・協力して講座・講演会やワークショップ、みなきたマルシェなど多様な催しを展開した。展示解説ボランティアは昨年度登録を済ませた 35 名を加えて活動を開始し、活動支援ボランティアは鉄道展等で活動機会を増やし、協力を得た。学校連携事業では小学校 3 年生向けの映像を新たに制作し、HP で発信して多数の視聴を得た。また小学校への訪問授業や、中社研・高文連・大学との連携事業などを実施し、実習や研修についても受入を進めた。広報では、SNS や HP をはじめ、紙媒体、また各種メディアなどを利用し、工夫した活動を展開した。	S
6 よこはま縁結び講座	昨年度から、横浜北部にある地域文化遺産をつなぐ取組を当館が中核館となって実施した。各団体のオリジナリティあふれる多彩な事業を緩やかに連携しながら展開したほか、ウェブメディアを通じて 4 本の記事を発信し、エリアと分野の横	A

	断と、情報の集約と発信を的確に進めた。	
7 情報事業	リアルタイムな情報発信が行える SNS の強みを活かし、ツイッターを利用した博物館展示情報や企画展の展示資料解説、またリアルタイムでの館の活動全般を紹介する情報発信を積極的に行い、HP については的確に情報更新を行った。またこれまで制作した映像のほか、新たに学校連携を図る映像や調査研究の成果である「文字のかたちのデータベース仮名字形一覧」をHPから発信した。また業務に用いる機器類を更新した。	A
8 施設維持事業	今年度も引き続き、日本博物館協会のガイドラインに則した新型コロナウイルス感染症対策を実施し、来館者が安全に利用できる施設の管理・運営に努めた。開館以来 28 年が経過した博物館や、開園から 27 年となる野外施設など、経年劣化のみられる施設・設備に対し日常の監視保全を行い、不具合については所管局と協議を進め、また必要な修理を進め、安定的な運営を維持できるよう努めた。	A
9 収益事業	ミュージアムショップ事業は、新商品の開発や、オンラインショップの安定的な運営などに取り組んだ。なかでも特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年」では、市内鉄道事業者 10 社のオリジナルグッズを揃えるなど、魅力的な企画展関連商品の取り扱い、今期売上は過去最高となった。駐車場事業は昨年度から引き続き駐車場管理会社に委託するコインパーキングとし、費用超過を解消した。	S

3 開港資料館事業

令和 4 年度は、文化庁の認定を受けた補助金事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」の 2 年目にあたり、昨年度立ち上げた各プロジェクトの成果が目に見えるかたちで出てきました。

事業の大きな柱のひとつであるデジタルアーカイブ事業では、令和 5 年度の公開を見据えた β 版の構築をおこない、浮世絵・古写真を中心とした画像史料のデジタル化も大きく進みました。また

館蔵コレクションを紹介する解説動画を 5 本製作し、YouTube チャンネルでの公開を順次進めています。共同申請者である中華街発展会協同組合との協働事業では、館蔵資料を活用して地域の歴史を紹介する文化観光ウェブサイト「こい旅横浜ー中華街ー」の制作公開したほか、「朝陽門」石碑案内板を新設しました。

昨年度に改修工事をおこなった旧門番所（付属棟）は、内装工事が完了し、ミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの機能を兼ね備えた店舗「PORTER'S LODGE」として、令和 5 年度のオープンを予定しています。そして令和 5 年度に実施する旧館（旧英国総領事館）の改修工事に向けて、外観復元やバリアフリー対応を目的とした実施設計をおこない、市の担当部局との協議を進めました。これにあわせた施設整備の面でも、地域史跡「たまくすの木」の樹勢診断等を実施し、中長期的な維持管理に向けた取り組みを進めました。

企画展事業では、幕末の知られざる写真家チャールズ・ウィードに焦点をあてた特別展「幻の写真家 チャールズ・ウィード」を開催しました。あらたに発見された写真を中心に、当館をはじめ国内外の機関が所蔵するウィードの撮影写真をほぼ網羅的に紹介した内容で、専門分野からも高い評価をいただいたほか、集客・事業収入の面でも大きな成果を上げました。

資料収集保管事業では、上記特別展に関連して、貴重なウィード撮影写真を収集できたほか、イギリス領事館時代の関係資料など、館蔵コレクションの充実につながる資料が収集できました。

調査研究事業では、幕末から明治・大正期の各テーマにもとづいた基礎的調査研究に加えて、外部研究者との連携研究では、あらたな論集刊行の企画検討が進んだほか、活動の総括となるシンポジウムの開催など、活発な活動がおこなわれました。

普及事業では、新規に連続講座を立ち上げ、対面での開催とあわせて有料での動画配信を実施したほか、横浜市認定歴史的建造物である中山恒三郎家の公開事業を、歴史博物館・都市発展記念館と共同で実施しました。コロナ禍で活動が限定されていた郷土史団体連絡協議会の各種事業もようやく再開しました。また館報『開港のひろば』のデザインをリニューアルし、カラーでの紙面構成としてリニューアル特別号を発行しました。

そして令和 4 年度は 3 年ぶりに地域の大規模イベント「ハマフェス Y163」が開催され、ハマフェス開催日は無料開館日としました。秋にはユーラシア文化館・都市発展記念館との共催でスタチュー・ミュージアムを開催し、文化財である当館の雰囲気を活かして、敷地内でのスタチューパフォーマンスを実施しました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 11 件 445 点 寄託 0 件 0 点	主な収集資料：井野写真館資料、木製アイスクリーム製造機、鈴木信貴家文書、佐藤謙三関係文書、イギリス領事館プレート、R. H. プラントン生誕 150 周年記念事業

		関係資料
資料の購入	23件 62点	主な収集資料：チャールズ・ウィード撮影ハーフステレオ写真、大正六年頃横浜市内写真
古文書のマイクロ化ほか	15件	主な複製（マイクロ撮影）資料：伊東亨家文書、斉藤可一家文書他
資料の分類・整理		未整理の文書群の分類・整理をおこなった。 主な資料：中山恒三郎家資料
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 1,244人 コピー枚数 19,463枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料のデジタル化を行った。 主な資料：O.M. プール資料から関東大震災関係写真等
	浮世絵・古写真 3,955点	文化観光拠点計画事業の一環として、デジタルアーカイブの公開に向けて、収蔵資料から浮世絵・古写真などの画像資料を選定してデジタル化をおこなった。
コレクション解説動画の制作	解説動画6本	文化観光拠点計画事業の一環として、「船から見た横浜」「横浜と外国人墓地」「横浜開港資料館所蔵古写真に見る和船」など、館蔵資料を活用した解説動画の制作をおこなった。
複製資料の提供	提供件数445件 1,701点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
原資料の貸出	貸出件数9件118点	他の博物館（神奈川県立歴史博物館、シルク博物館、練馬区立石神井公園ふるさと文化館、宇都宮美術館、郡山市美術館、高知県立坂本龍馬記念館等）の展覧会へ原資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (R4.4～R5.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料（点）	— (—)	— (2)	— (—)	— (—)	— (2)	15,236 (15,236)
文書・記録（点）	— (—)	— (29)	445 (165)	— (—)	445 (194)	85,889 (85,444)
新聞資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	9,955 (9,955)
絵画・写真等	14	—	—	—	14	33,684

(点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(33,670)
コレクション (点)	— (一)	— (一)	— (一)	— (一)	— (一)	51,408 (51,408)
文献資料 (点)	48 (73)	— (一)	— (一)	— (一)	48 (73)	58,477 (58,429)
合 計	62 (73)	— (31)	445 (165)	— (一)	507 (269)	272,637 (272,130)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製資料の提供実績

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
出版社（一般書・教科書・雑誌）、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	445件	448件	460件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
閲覧室利用者数(人)	1,244	792	535
複写申込件数(件)	591	500	365
複写枚数(枚)	19,463	18,316	8,799
レファレンス件数(件)	1,962	2,048	1,507

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
環境調査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。5回／年

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について、各テーマに基づいた調査研究を実施しました。また財団諸施設との連携研究事業、外部研究者との共同研究事業も継続して実施しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜開港資料館の建築	①館蔵資料から、昭和期のイギリス総領事館の画像史料（写真・絵葉書）に

資料に関する調査研究	関する調査をおこない、外観・外構が確認できる資料を抽出した。 ②横浜市イギリス館（旧イギリス領事公邸）の施工を担当した鴻池組にて、イギリス公使館・領事公邸関係の建築図面を調査した。旧館の改修工事に向けて、次年度も調査を継続する。
横浜近代欧米関係史	①ブルーム・コレクションについて資料の状態確認作業を実施し、データ化を行った。また、配置の入れ替えをおこない、これ以上状態が悪化しないように特に状態がひどい資料は中性紙封筒や薄葉紙などで保存した。 ②館蔵海外関係資料の確認をおこない、一般洋文書の目録を作成した。一般洋文書のなかで明治期に来日外国人が残した資料の調査をおこない、『開港のひろば』154号に「グダローの自筆稿本“Voyage à Niigata”」と題して報告した。
幕末～明治初期古写真の研究	幕末～明治初期に撮影された当館所蔵古写真のさらなる活用をはかるため、次のような調査研究をおこなった。①従来知られてこなかったチャールズ・ウィード撮影の日本写真については、当館所蔵資料を含め国内に残存する写真全点の調査を実施（外部3機関1個人）、その成果を特別展「幻の写真家チャールズ・ウィード」と同展覧会図録で報告した。②当館所蔵の木村芥舟関係資料に含まれる幕末期に撮影されたガラス板写真の高精細撮影と内容分析を東京大学史料編纂所画像史料解析センターと共同で実施した。③当館所蔵の古写真アルバムの細目録作成を、元当館調査研究員斎藤多喜夫氏の教示を得ながら実施した。②については2023年度も継続実施し成果は2024年度特別展で報告する。③の成果はデジタルアーカイブに反映させる。
横浜開港資料館のアーカイブ機能に関する研究	①HPでの公開に向けて古文書目録のデータ入力およびPDF化を進めた。 ②館蔵資料の保存・整理状況を体系的に把握し、効率的なアーカイブ機能の構築方法について検討した。 ③デジタルアーカイブによる資料公開に向けてβ版を作成し、動作確認およびサイトデザインの検討を行った。 ④資料に応じたメタデータの記載方法、情報公開機能、管理システム、効果的な活用事例等に関する聞き取り調査を行った。 ⑤門倉保茂家文書の整理作業を進めた。
横浜近現代政治社会史	①2025年開催予定の戦後80年記念企画展示に向け、開港資料館が所蔵する今井清一文庫をはじめとする戦時資料の調査を行った。 ②関東大震災時における横浜の罹災者救済事業について、開港資料館が所蔵する資料を調査したほか、横浜YMCAなど市内団体所蔵の資料に関しても調査を行った。その成果は、令和5年度における震災100周年をテーマとして発行する開港資料館出版物で公表する。 ③中山恒三郎家資料について共同研究会とともに整理作業を進めた。また、京浜地域の移住者に関する調査研究を進めた。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業の実施。 開港資料館所蔵の戦時資料の調査を行った。また、都市発展記念館所蔵の聖母愛児園・ファチマの聖母少年の町資料群に関する追跡調査を行い、卒園生の聞き取り調査成果を得た。また、聞き取り調査の中で新たな未公開資料群が発見され、卒園生より寄贈の申し出を受けた。この成果は2025年度の企画展で公開予定。 ＊都市発展記念館・市史資料室との連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	都市横浜の歴史空間を復元する基礎作業として、幕末期横浜の古地図の描き起こし（トレース）および地図中のくずし字の翻刻をおこなった（「〔横浜港御役宅之図〕」、「御役所其外地割絵図」、「横浜亀絵図」）。本事業で蓄積した情報・知見をもとに、神奈川県立歴史博物館の特別展「地図最前線」の関連事業に協力をおこなった。 ＊都市発展記念館・神奈川県立歴史博物館との連携研究事業

(3) 外部研究者との共同研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜幕末維新史研究会	幕末維新期横浜の政治・外交・経済・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料（古文書等）をもとに総合的な調査・研究をおこない、講座・展覧会などで成果を報告する。（1／4次）	①幕末維新期の政治・外交・経済・社会等について、数年間外部研究者とともに調査研究してきた成果を、論集『幕末維新期の横浜』として刊行することを企図し、その内容等について議論した。また、各論考の内容について報告会を開催した（7/20, 10/29, 3/14）。 ②幕末維新期の横浜に関わる研究報告会と巡見を実施した。 ・7/20 横浜港・大岡川・堀川の巡見。 ・8/20 三野行徳氏（昭和女子大学講師）「旗本研究の現状と課題」 ③幕末期横浜の社会情勢を知りうる重要史料の翻刻をおこなった。 「神奈川奉行支配御用出役今井清四郎明細短冊」（国立公文書館蔵）ほか。 ④幕末期横浜の社会情勢・対外関係に関する史料の調査・収集を行った。9/15 国立国会図書館調査 9/16 国立公文書館調査

		2/21 安城市歴史博物館調査
中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (1/3年次)	令和元年度から本格的に開始した文書の整理作業、クリーニングを引き続き実施したほか、仮目録の整備を行った。また、2023(令和5)年3月11日に研究会を実施し、今後の活動方針について検討した。加えて、外部講師として相澤雅雄氏(地域史研究家)を招き、「書画に足跡を残した松林圃の賓客」について報告してもらった。
京浜移住者研究会	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (1/2年次)	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を実施する。今年度はシンポジウム「能登半島と近代日本の都市移住者―京浜地域の銭湯経営者を中心に―」を12月3日にラピア鹿島(石川県中能登町)で開催し、現在までの調査成果を報告した。本シンポジウムの成果は、令和5年度発行の都市発展記念館紀要にて公表する。
相武地域史研究会	博学連携事業の一環として、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究(軍隊・戦争と地域社会)を東海大学文学部歴史学科と共同で実施する。 (2/2年次)	博学連携事業の一環として、東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究(軍隊・戦争と地域社会)を実施する。今年度は相武地域史研究会第4回シンポジウム「軍隊・戦争と地域社会―津久井・横浜・小田原―」を、2022年10月22日(土)に東海大学会場およびオンラインで開催した。

3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

常設展示室の適切な維持管理をおこなうとともに、新収資料等を紹介するミニ展示を定期的を開催しました。また旧館・中庭を活用したイベントを開催し、集客を図りました。毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

(1) 常設展示室観覧者の推移(基本観覧想定数 23,000 人)

	有料入館者(人)					無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	市内 65	閲覧室	計					
4年度	17,937	3,621	2,140	726	24,424	8,292	32,716	154.8%	307	107
3年度	11,906	2,164	1,716	750	16,536	4,600	21,136	165.4%	307	69
2年度	8,573	964	—	411	9,948	2,832	12,780	26.9%	253	51

*令和3年度以降の数字は、企画展を開催していない期間の常設展観覧者数と、企画展開催期間中の入館者数を加算したもの。

(2) 常設展示室でのミニ展示

常設展示室内で、新収蔵資料や新発見資料を紹介するミニ展示を開催した。

項 目	内 容 ・ 成 果
ミニ展示	第110回 2021/12/3～2022/5/26「日本最古のスポーツクラブ YC&AC」 第111回 5/27～8/25「横浜海岸教会 誕生から150年」 第112回 8/26～11/24「鉄道技師の関東大震災―木村義麿旧蔵資料を中心に―」 第113回 11/25～2023/2/23「新発見！ 江戸城の手書き絵図」 第114回 2/24～5/25「継承されてきた本たち―ブルーム・コレクションより―」

(3) 旧館の活用

文化財施設の活用のため、旧館（旧英国総領事館）1階の記念ホールや記念室を公開した。

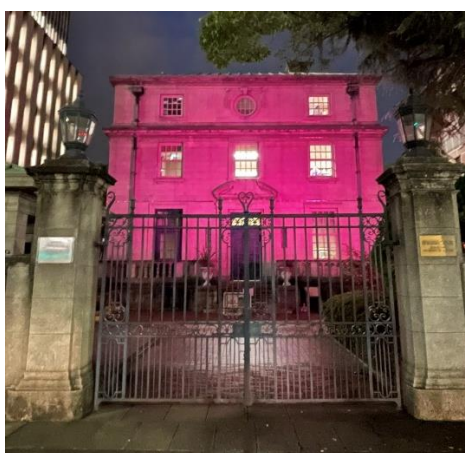
旧館来場者数：66,616人（年間）

項 目	内 容 ・ 成 果
開港（開館）記念日に関する事業	・ 記念室（旧総領事室）の特別公開（5/28～6/30） 来場者 7,297 人 ・ 開港（開館）記念日の6月2日を無料開館日として、ミュージアムショップセールを実施。来館者 510 人。
記念ホールでのパネル展示	旧館1階記念ホールを活用して、下記パネル展示を開催した。 ・ 「横浜海岸教会 誕生から150年」（5/27～2023/3/18、展示室2のミニ展示との連動企画） ・ 「横浜開港 海を渡った日本の草花と西洋公園」（2023/3/19～6/11、関内・関外地区活性化協議会主催「花咲く Rally 花咲く横浜をめぐるスタンプラリー」との連動企画）
第3回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの共催	日本大通り8カ所、横浜中華街1カ所の合計9会場にポイントを設けて、各日16組のスタチューを設置した（11/19-20）。20日は雨天のため、一部会場を記念ホールに移して実施した。両日とも無料開館日とした。2日間で来場者 957 人。 *ユーラシア文化館、都市発展記念館との共催。
ライトアップの実施	文化観光拠点計画事業の一環として、今年度は、ピンクリボンかながわ主催の「ピンクリボンライトアップ2022 in かながわ」（9/30～10/2）に参加し、期間中の夜間にライトアップを実施した。
ドローン機による旧館（旧イギリス総領事館）の映像撮影	文化観光拠点計画事業の一環として、ドローン機を使用しての旧館（旧イギリス総領事館）および「たまくすの木」の上空からの映像撮影を実施した。

商業撮影の対応	結婚式の撮影やドラマやテレビのロケなど、旧館（旧イギリス総領事館）を利用したの商業撮影に対応した。
---------	---



スタチュー・ミュージアム



ライトアップの実施



商業撮影の対応

（４）中庭展示

横浜市地域史跡である「たまくす」の木を中心に、ハイネ画《ペリー横浜上陸図》の陶板プレート、獅子頭共用栓・ブラフ溝・ガス灯（模型）などの都市インフラ資料、開港から昭和戦前期にいたる横浜の歴史を子ども向けに紹介した展示パネルなどで、敷地内を散策する人に横浜の歴史をわかりやすく紹介した。

中庭来場者数：95,723 人（年間）

（５）常設展示の多言語化

多言語アプリケーション導入に向けての準備として、旧館展示内資料解説及び屋外展示解説を対象に中国語（繁体字・簡体字）・韓国語への翻訳作業を行った。

４ 企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料に関する研究成果を、企画展示等を通して公開しました。今年度から、調査研究員がそれぞれのテーマで研究の最前線を紹介する連続講座を新規に開催し、講座の動画を有料配信しました。また昨年度から引き続き、企画展のオンライン解説動画を製作し、公式 YouTube チャンネルで公開しました。あわせて SNS を活用した資料紹介も積極的に進めました。

（１）企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜開港資料館特別展 「幻の写真家 チャールズ・ウィード 知られざる幕末日本の風景」 R5. 1. 28(土)～3. 12(日)	6,766 人 (目標数 3,000 人) 1 日あたり 178 人	従来一般に知られてこなかったチャールズ・ウィードというアメリカ人写真家を取り上げ、その日本時代の作品(写真)の全体像について新出資料を中心に紹介した。くわえて、ウィードが来日した慶応 3 年(1867)の時代状況についても解説をおこない、ウィード写真

会期 38 日		の歴史資料としての価値をわかりやすく説明した。通常より短い会期にも関わらず、目標入館者の 225% に達する多くの入館者があり、また、これまで知られてこなかった写真家の「世界初」の展示を、詳細な調査研究をおこなったうえで催行した点も高い評価を得た。
---------	--	--

(2) 企画展関連事業の開催

事業名称	参加者数	事業内容
第 1 回展示関連講座 R5. 2. 18 (土)	47 名	関連講座「幕末明治を記録した写真術」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：高橋則英氏（日本大学芸術学部特任教授）
第 2 回展示関連講座 R5. 3. 4 (土)	40 名	関連講座「チャールズ・ウィードとその時代」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：吉崎雅規（当館調査研究員）
オンライン展示解説		特別展「幻の写真家 チャールズ・ウィード」の内容を紹介するオンライン展示解説動画を制作し、当館公式 YouTube チャンネルで公開した。



「チャールズ・ウィード展・展示室内の風景



ウィード撮影の横浜居留地（岡山洋二氏蔵、1867 年）

(3) 関連出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
展覧会図録『幻の写真家 チャールズ・ウィード』	1000 部	2,200 円 (税込)	A4 変形判、128 頁。横浜開港資料館編。特別展「幻の写真家 チャールズ・ウィード」で展示紹介した資料の図版のほか、出陳できなかったウィード写真も収録。ウィードの日本時代の作品が一覧できるように構成した。また専門家による論考 5 本と詳細な資料解説も付した。

(4) パネル展示の開催

展示名/開催期間	目的・意図 及び 内容・成果
「ちむどんどんする街・横浜鶴見の 今昔（いまむかし）－街を支えた同 郷者のつながり－」 R4. 8. 26(金)～10. 30(日)	企画展示室を活用して、NHK 連続ドラマ小説の舞台として注目さ れる鶴見の街の変遷を、航空写真や地図・絵葉書などの資料から紹 介した。あわせて鶴見区内に残る銭湯の写真パネルを展示し、移住 者の街としての特性を紹介した。 【関連事業】 関連講座の実施（9/10、参加者 26 名） ①「鶴見のオキナワ－集う人々とその移り変わり」 講師：山口拓氏（福島県立博物館主任学芸員） ②「鶴見の銭湯と北陸出身者の系譜－昭和戦前期を中心に－」 講師：吉田律人（横浜都市発展記念館調査研究員）

(5) 連続講座 2022 の開催

事業名称	参加者数	事業内容
第 1 回 R4.9.24（土）	26 名	「震災復興を担った横浜市の建築家たち」 講師：青木祐介（当館副館長）
第 2 回 R4.10.15（土）	18 名	「戦後混乱期横浜の都市生活－磯子区の時計屋さんの資料より」 講師：吉崎雅規（当館調査研究員）
第 3 回 R4.11.12（土）	35 名	「幕末の海軍と横浜」 講師：神谷大介（当館調査研究員）
第 4 回 R4.12.10（土）	13 名	「横浜近代市民スポーツの歩み」 講師：西村 健（当館調査研究員）
第 5 回 R5.1.14（土）	37 名	「フランスと幕末日本－第二帝政の対外政策」 講師：白井拓朗（当館調査研究員）

(6) 地域・市民・学術団体との協働事業の実施

項 目	事業内容等
横浜郷土史団体連絡協議会との協働	横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財 団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横 浜郷土史団体連絡協議会（令和 4 年度末現在、加盟 40 団 体）との事業協働。 ①総会・大会 5/14(土) 於横浜開港資料館講堂 会員団体紹介 記念講演会：「横浜市民スポーツのあゆみ」 横浜開港資料館 西村健調査研究員 ②研修会（第 56 回～58 回）実施

	③役員会（9回）実施 ※うち1回は臨時役員会 ④横浜郷土史団体連絡協議会 News62 号～64 号発行。 ⑤会報 16 号刊行。
ハマフェスY163（旧横浜セントラルタウン・フェスティバル）への参加 R4. 5. 28（土）・29（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として都市発展記念館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催した。また両日とも無料開館した。
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 R4. 11. 26（土）27（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、書院内でのミニ展示「中山家伝来書画と川和の歴史」や、相澤雅雄氏（地域史研究家）を講師に招いての関連講座「書画に足跡を残した松林圃の賓客」を実施した。 参加者：220名（26日）、462名（27日）、43名（講座） * 横浜都市発展記念館、横浜市歴史博物館との連携事業 共催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・都筑をガイドする会
第27回震災対策技術展パネル展示「100年前の被災地、横浜一写真が語る関東大震災―」 R5. 2. 2（木）3（金）	パシフィコ横浜Dホールにて開催された第27回震災対策技術展（主催：「震災対策技術展」実行委員会）に参加し、関東大震災の写真パネル展を実施した。横浜開港資料館所蔵の西野芳之助撮影関東大震災ガラス乾板を紹介した。 * 横浜都市発展記念館との連携事業
イギリス大使館主催事業への協力 R5. 3. 21（火祝）	イギリス大使館オープンデーにおけるパネル展示・放映動画について、当館所蔵資料の提供および助言、動画への出演をおこなった。
横浜商工会議所などの機関誌への原稿執筆および学会との連携事業	・横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」、横浜市防火防災協会機関誌「よこはま都市消防」等への寄稿。 ・日本写真芸術学会研究会と連携して古写真に関する研究会を当館で実施。

（7）行政との連携事業

項 目	事 業 内 容 等
-----	-----------

横浜国際消防・防災展への参加 R4.6.8（水）・9（木）	パシフィコ横浜Aホールにて開催された横浜国際消防・防災展（主催：IFCAA 2022 YOKOHAMA実行委員会）に参加し、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団の広報と、消防及び災害史関連展示の図録販売、パネル展等を行った。 *横浜市消防局、都市発展記念館との連携事業
「文化財保存活用地域計画」策定に係る協議会への委員派遣 R5.2.6（月）	横浜市教育委員会生涯学習文化財課が進める「文化財保存活用地域計画」の策定において、地域計画協議会に委員2名（当館副館長、歴史博物館副館長）を派遣した。
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣 R4.11.1（火）、R5.1.24（火）、 R5.3/8（水）	横浜市環境創造局が進める「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。
発掘調査および歴史的建造物の保存改修工事等への助言	・山下公園内インド水塔の改修工事に関して、モザイクタイルの保存部位について所管局に助言をおこなった。 ・新港9街区の整備に関して、現地に設置される旧新港ふ頭発電所跡発掘調査に関する歴史サインについて所管局に助言をおこなった。
横浜市公共建築 100 周年事業への協力	横浜市建築局が開催する公共建築100周年事業（市庁舎でのパネル展示）への館蔵資料の提供および100周年記念誌への原稿執筆をおこなった。
「広報よこはま」への執筆協力	・中区版の連載記事「なか区・歴史の散歩道」を開港資料館と共同で執筆。連載「鉄道150周年記念～中区・駅めぐり編」を掲載した。 ・保土ケ谷区版の連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。12月号に「近代水道と保土ケ谷」を掲載した。 ・市版の連載記事「よこはま彩発見」を財団各施設で執筆。2月号に「幕末期の横浜、日本の風景を古写真からめぐる」を掲載した。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆協力。 横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」、文化放送「横浜流儀～ハマ・スタイル～」等への出演。

（８）マスコミ各社への協力

項 目	事 業 内 容 等
テレビ局・新聞社などへの協力	NHK「ブラタモリ」取材対応・出演、マリンFM「横濱 歴史のタイムマシーン」出演ほか。

(9) 学校連携

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れた。 コロナ禍での開催となり、ソーシャルディスタンスを保つための対応として、実習場所を講堂とした。 実施日：8/23（火）～8/28（日） 人 数：7 人
アーカイブズ・カレッジの受け入れ	国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）の施設見学を受け入れた。 実施日：9/2（金）
神奈川県高等学校文化連盟との連携	神奈川県高等学校総合文化祭・第 28 回神奈川県高等学校社会科学研究大会（11 月 13 日（日）、横浜市歴史博物館講堂）の開催支援を行った。
市内小学校団体見学の受入	都市発展記念館・ユーラシア文化館で実施する市内小学校4年生の吉田新田学習の受け入れに、当館講堂を提供。40校、2,373人の利用があった。

(10) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」のリニューアル	館報「開港のひろば」のデザインを一新し、従来のモノクロからカラーの紙面にリニューアルした。第 154 号をリニューアル特別号とし、16 ページの拡大版で発行した。
リーフレット類作成	2022 年度催し物案内（8 月～3 月）の発行
その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュース、SNS による催し物等の情報発信 ③ みなとみらい線日本大通り駅構内への企画展ポスター掲示 ④ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材受け ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時行った。 また、昨年更新した OPAC システムに所蔵図書・新聞雑誌の追加アップを行った。 「開港のひろば」を発行に合わせて、テキスト情報を持った（文字検索や読みあげが可能な）PDF 画面で掲載した。 また、情勢に合わせて利用案内等の更新を頻繁におこなった。日本語のページだけでなく、英語・中国語・韓国語のページも適宜更新した。 ・ HP アクセス件数 合計 137,664 件 TwitterやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。今年度は新規に連続講座（全5回）の有料動画配信をおこなった。 【Twitter】 ・ ツイート数 332 ・ リツイート 2,591 ・ いいね数 9,189 ・ ツイートインプレッション 675,258 【YouTube】 ・ 再生回数 3,010 ・ 総再生時間数 154 ・ チャンネル登録者数 83 ・ 公開動画本数 8
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第 206 号～第 214 号(計 9 回)をのべ 12,966 名の登録者に配信した。

6 旧館活性化事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

開港資料館の旧館（旧英国総領事館）および付属棟（旧門番所）の建物を、関内エリアのあらたな観光拠点として幅広く活用していくための再整備事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」（後掲）と連動して、次年度から改修工事に着手する旧館（旧イギリス総領事館、市指定文化財）の現状変更申請や、外構部分の整備に向けた市関連部局との協議、および市地域史跡「たまくすの木」の中長期的な維持管理に向けた樹勢診断等を実施しました。

（1）施設整備

項 目	内容・成果
旧館（旧イギリス総領事館）の現状変更申請に向けた協議	次年度から実施する旧館（旧イギリス総領事館）の実施設計（文化観光拠点計画にて実施）をもとに、市指定文化財である建物の現状変更申請に向けて、市担当部局（教育委員会、建築局）との協議を進めた。

外構整備計画の検討	次年度からの旧館（旧イギリス総領事館）改修工事と並行して実施する、敷地南側外構部分の植栽整備について基本設計をおこない、市担当部局（教育委員会、環境創造局）との協議を進めた。
地域史跡「たまくすの木」の樹勢診断	横浜市の地域史跡である「たまくすの木」の中長期的な維持管理を目的として、（一社）日本樹木医会神奈川県支部へ協力を依頼し、その第一段階として、「たまくすの木」の調査診断を実施した。この調査診断結果を基に、次年度以降は「たまくすの木」の持続可能で適切な維持管理を行っていきます。
オオイタビの剪定除去	旧イギリス総領事館時代の外観復元に向けた整備として、敷地を取り囲む塀を覆っていた蔓性植物のオオイタビの剪定除去をおこなった。

（２）旧館を活用したイベントの実施【再掲】

項 目	内容・成果
記念ホールでのパネル展示	旧館 1 階記念ホールを活用して、下記パネル展示を開催した。 ・「横浜海岸教会 誕生から 150 年」（5/27～2023/3/18、展示室 2 のミニ展示との連動企画） ・「横浜開港 海を渡った日本の草花と西洋公園」（2023/3/19～6/11、関内・関外地区活性化協議会主催「花咲く Rally 花咲く横浜をめぐるスタンプラリー」との連動企画）
第3回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの共催	日本大通り 8 ヲ所、横浜中華街 1 ヲ所の合計 9 会場にポイントを設けて、各日 16 組のスタチューを設置した（11/19-20）。20 日は雨天のため、一部会場を記念ホールに移して実施した。両日とも無料開館日とした。2 日間で来場者 957 人。 ＊ユーラシア文化館、都市発展記念館との共催。

7 開港資料館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。今年度においても空調システム関連の不具合が発生し、特に旧館の空調を司るガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン（GHP）で発生した冷媒漏洩は、発生時期が冬季であったため、修理が終わるまで稼働できず、運営面にも影響がでるなど大きな問題となりました。新・旧館の空調システムは設置から交換目安となる 10 年が既に経過しており、システム全体の更新が強く望まれます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。 主な不具合：新館 B1F 収蔵庫前・旧館 2 階廊下の天井部結露。キュービクル、高圧受電盤の経年劣化。空気調和機 4 台のファンベルト劣化（令和 5 年度交換予定）。主な修繕：ガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン（GHP）漏洩修繕。空気調和機（新館 1・2 階展示室系統）のモータ異音に伴う交換。

8 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

① 企画展関連書籍や絵はがき・パンダナ・ミニタオル等のグッズを継続販売

② オリジナル商品の新規作成

特別展「幻の写真家 チャールズ・ウィード」に関連して、館蔵古写真から幕末期のステレオ写真6点の復刻版を制作・販売した。

③ 展示に合わせた書籍や横浜関連のグッズなどの仕入れ販売

④ オンラインショップの運営

⑤ 受付業務委託業者との連絡調整

（2）自動販売機（1台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置している。

<各事業の推移>

（千円）

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
ミュージアムショップ売上	3, 2 8 2	2, 2 2 7	8 8 9
自動販売機手数料収入	9 7	8 9	7 2
喫茶室委託料収入	—	—	1, 8 6 0

※喫茶室は令和2年度末で契約を終了した。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度はイギリス総領事館時代の資料やチャールズ・ウィード撮影の貴重な古写真等が収集でき、館蔵資料の一層の充実につながった。デジタルアーカイブの公開に向けた画像資料のデジタル化および館蔵資料の解説動画の制作も順調に進んだ。	S
調査研究事業	各調査研究・連携研究とも順調に進んでいる。とくに外部研究者との連携研究では、あらたな論集刊行の企画（幕末維新史研究会）や、活動の総括となるシンポジウムの開催（京浜移住者研究会・相武地域史研究会）など、活発な活動がおこなわれた。	S
常設展事業	鉄道開業150周年や海岸教会150年などのミニ展示の開催に加えて、記念ホールを会場とした	A

	パネル展示やライトアップ等の旧館活用事業を実施した。日本大通り界限への観光客数が戻りつつある状況で、入館者数は前年度比 155% となり、コロナ前（H30 年度）から 6 割の回復となった。	
企画普及事業	今年度は特別展 1 回の開催であったが、幕末の古写真という人気のテーマにおける研究の最前線を紹介する内容から、集客・事業収入ともに大きな成果となった。普及事業では、企画展示室でのパネル展示や連続講座等の新規事業に加えて、コロナ禍で中止が続いていた地域事業者や市民団体との連携事業も再開した。	S
情報事業	定期的な HP コンテンツの更新、メールニュースの配信に加えて、Twitter での情報発信や YouTube チャンネルでの動画配信をおこない、新規に連続講座の有料動画配信を実施した。	A
旧館活性化事業	文化庁の補助金事業「文化観光拠点計画」に連動して、次年度以降の施設整備に関わる市関連部局との協議を順調に進めた。また「たまくすの木」の樹勢診断等を実施し、文化財施設として中長期的な維持管理の取り組みを進めた。	A
施設維持事業	資料の保管・管理、施設の維持・管理を適切に行い、建物や設備機器の老朽化によるトラブルに適切に対処して、館運営に支障がないように努めた。	A
収益事業	今年度開催の特別展に関連して、館蔵資料をもとにオリジナル商品を制作販売した。展示の盛況に比例して、図録や関連出版物の売り上げが非常に好調だったことで、ショップの販売収入は前年度比 185% 増となった。	S

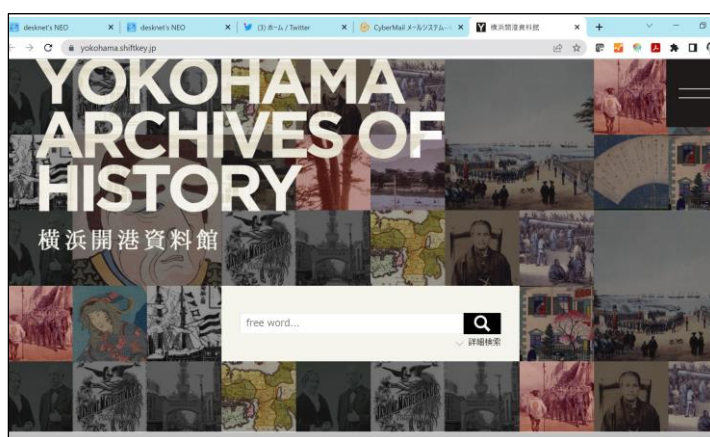
9 拠点計画推進事業

令和 3 年度に文化庁より認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づき、2 年目の今年度は、下記 9 項目の事業についての取り組みを進めました。

項 目	内容・成果
-----	-------

「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業	令和3年度に実施した先行事例のコンサルティング結果を踏まえ、観光活用を前提としたデジタルアーカイブβ版のシステムを構築した。あわせてデジタルアーカイブに登載可能な高精細のデジタル撮影を実施し、浮世絵 944 点、古写真 3011 点の画像を得た。
旧館展示「横浜開港の記憶」制作事業	次年度の展示実施設計に向けて、昨年度コロナ禍で実施できなかった修理工事中の旧長崎英国総領事館（国重要文化財）の視察をおこない、外観や内装の復元整備手法やバリアフリー対応の考え方等について、担当者から説明を受けた。あわせてグラバー園では、デジタル技術等を用いた展示に関してヒアリングをおこない、拠点から対象エリアへの効果的な誘導を実現するために必要な展示仕様の検討材料を得た。
オンライン「横浜開港」コレクション解説配信事業	館蔵資料を中心に、伝統的な観光地エリアやその歴史と結びつく周辺地を紹介する動画計 5 編（船から見た横浜 前編・後編、横浜と外国人墓地、幕末の台場建設プロジェクト、横浜開港資料館所蔵古写真に見る和船）を制作した。
多言語アプリケーションの整備事業	「伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業」と連携し、開港資料館の常設展示室を起点に、横浜中華街へと全 10 スポットを回遊するインストール不要の多言語ウェブコンテンツ（ウェブアプリ）「こい旅横浜ー中華街ー」を、共同申請者である横浜中華街発展会協同組合と制作した。また中庭展示や旧館に設置された解説パネルを翻訳し、研究者による校正を経て、英語、中国語（繁体字・簡体字）・韓国語のテキストデータを得た。
伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業	横浜中華街と山下公園エリアの結節点であり、元町・中華街駅出口階段前に位置する牌楼「朝陽門」に、学芸員が監修した横浜中華街や設置場所の歴史を紹介する案内板を設置した。これにより、既存の案内板 3 か所を含め、東西南北の主要な中華街への入口で、エリアの歴史的な解説・情報を提供することが可能になった。あわせて、デジタルアーカイブや多言語ウェブコンテンツへのアクセスを可能にする QR コードの添付スペースが確保でき、街歩きと開港資料館の所蔵資料や展示室との連携促進の基盤が整った。
「横浜開港」資料の商品化事業	デジタルアーカイブ事業で作成した館蔵資料の高精細画像を使用し、オリジナルグッズの制作販売を進めた。とくに幕末のステレオ写真の復刻版は、幕末の外国人の見た横浜を追体験できる当館ならではの新品となった。また今後のブランドイメージの発信にむけ、商品等に使用する館のロゴマークをリニューアルした。
「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業	旧門番所（市指定文化財）である付属棟の内装工事を実施し、ミュージアムショップ、カフェ、コンシェルジュの 3 つの機能を併せ持つ施設としてリニューアルした。店舗名はオリジナル図面に記

	載された表記から「PORTER' S LODGE」とした。またコーチング支援による指導を得ながら、今後取り扱う商品の方向性を示すブランドガイドブックを作成し、それを踏まえて、オリジナル商品の開発にむけた拠点計画対象エリアの商品調査をおこなった。
公衆 Wi-Fi 情報通信機器環境整備事業	昨年度に引き続き、公衆 Wi-Fi の利用可能エリアの拡大をおこない、旧館内や付属棟、閲覧室など計 10 箇所にアクセスポイントを設置した。館内の多くのエリアで公衆 Wi-Fi の利用が可能になったことで、当館を立ち寄りスポットとするデジタルスタンプラリーにも参画することができ、来館者の近隣観光地の回遊データを取得することができた。
旧英国総領事館等再整備事業	昨年度に策定した開港資料館旧館保存活用計画に基づき、旧館の活用に向けた耐震診断を実施した。その結果をふまえて、市指定文化財である旧館（旧英国総領事館）の外観について、領事館として活動していた昭和戦後期を復元することを大きな方向性とし、令和 5 年度に実施する外観復元工事やバリアフリー対応の連絡通路整備等の実施設計をおこなった。



デジタルアーカイブ β 版



「PORTER' S LODGE」店舗内部

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
拠点計画推進事業	昨年度からの 2 年間で、ソフト面ではデジタルアーカイブ β 版の構築や館蔵コレクション動画の制作公開、地域事業者と協働しての文化観光 Web コンテンツの制作公開など、目に見える成果が出てきた。また施設のハード面では、	S

	付属棟の内装工事が完了し、新規店舗としての運営準備が整った。そして旧館（旧イギリス総領事館）の整備では、外観復元年代を設定したうえで次年度からの改修工事に向けた実施設計が完了した。	
--	--	--

4 都市発展記念館事業

令和4年度は、それまでコロナ禍で開催を見合わせていた地域の大規模イベントが少しずつ再開し、日本大通り界隈にも観光客が戻りつつあるなか、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスに対する基本的な感染対策を実施しながら、各事業の取り組みを進めました。

企画展事業では、鉄道開業150周年記念事業を中心に据えました。昨年度から継続して開催中の企画展「激震、鉄道を襲う！」をプレ展示として、関東大震災で被災した横浜の交通網の復旧過程を新出資料から紹介し、そして10月14日の「鉄道の日」を含む秋には、特別展「横浜鉄道クロニクル」を開催して、明治5年の鉄道開業から現在までの150年間の鉄道の歴史を振り返りました。常設展示室やギャラリーでのパネル展示もあわせて、年間を通じて鉄道開業150周年の関連事業を継続しました。とくに特別展は、これまで当館が開催してきた鉄道関連展示を集大成した内容で、入館者数・事業収入ともコロナ禍以降で最大の成果となりました。

資料収集保管事業では、昨年度から引き続き、戦後のニュース映像のデジタル化を進め、当館の映像コレクションを公開するサイト「映像でたどる戦後の横浜」を立ち上げました。

調査研究事業では、震災復興・京浜工業地帯など都市形成分野での基礎研究を進めるとともに、財団諸施設や外部研究者との連携研究事業では、それまでの活動の総括となるシンポジウムを開催して研究成果を報告しました。

普及事業では、3年ぶりの開催となった地域事業者によるイベント「ハマフェス Y163」に参加し、開催日を無料開館したほか、令和4年度は当館とユーラシア文化館の開館20周年でもあり、コロナ禍の2020年以来開催を見合わせていた開館祭を1日に限定して開催し、多くの来場者を得ました。また広報誌『ハマ発 Newsletter』でも開館20周年の特集号を組みました。

学校連携事業では、昨年度から引き続き、感染防止対策を整えたうえで、開港資料館とも連携して市内小学校団体を受け入れました。学校団体の利用数も少しずつ回復してきています。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製等により収集し、分類・整理するとともに、資料を良好な状態で保管するため、定期的な環境調査を行いました。

（1）資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈5件 147点	主な資料：『市民の生活図集1970』、『港北地区カルテ

	寄託0件 0点	1981』、『保土ヶ谷区環境カルテ1983』、SL機関車出発式の写真（1980年）、海軍航空図第1号、第102号、「横浜・中区史」資料複写写真ほか
資料の購入	1件 70点	主な資料：横浜市住宅地分譲チラシ
資料の移管	0件	主な資料：なし
資料修繕	0件	主な資料：なし
資料の複製収集	0件	主な資料：なし
資料のデジタル化	14点	主な資料：「ヨコハマ・ポートサイド」昭和60年度ほか
複製資料の提供	57件 154点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ当館所蔵資料のデジタルデータ（画像および映像）を提供した。
資料の特別利用	2件 6点	調査研究目的による、当館所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	1件 1点	他の博物館施設等での事業に当館所蔵資料の原資料を貸し出した。

（２）資料収集実績（R4.4～R5.3）

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	- (-)	- (-)	- (11)	- (-)	- (11)	1,681 (1,681)
図書	- (-)	- (-)	4 (16)	- (-)	4 (16)	2,424 (2,420)
新聞雑誌	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2,180 (2,180)
文書	- (-)	- (-)	34 (55)	- (-)	34 (55)	4,496 (4,462)
紙票類	70 (-)	- (-)	- (76)	- (-)	70 (76)	5,683 (5,613)
写真	- (-)	- (-)	107 (3,358)	- (-)	107 (3,358)	25,747 (25,640)
絵葉書	- (-)	- (-)	- (4)	- (-)	- (4)	2,525 (2,525)
地図	- (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (1)	740 (740)
図面	- (-)	- (-)	2 (1)	- (-)	2 (1)	951 (949)
絵画	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)
映像	- (-)	- (9)	- (2)	- (-)	- (11)	66 (66)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	171 (171)
電子資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (12)
合 計	70 (1)	- (9)	147 (3,523)	- (-)	217 (3,533)	46,678 (46,461)

※（ ）内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部倉庫での未燻蒸資料の燻蒸（今年度は実施せず）。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫（200㎡）	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫（子安台）	大型資料（昭和初期の置時計・大テーブル他）などを収蔵
外部倉庫（大黒ふ頭）	大型資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また財団諸施設や外部研究者との連携研究事業を進めました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
震災復興と「大横浜」の形成に関する調査研究 （1／2年次）	関東大震災後から第2次世界大戦に至る時期の横浜の都市形成史を政治社会史の視点から明らかにする。企画展「激震、鉄道を襲う！—関東大震災と横浜の交通網—」および展示図録において研究成果を発表したほか、新たな関東大震災関係資料の収集を実施した。また、次年度の企画展「関東大震災 100 年 大災害を生き抜いて」（仮）にむけて被災者の残した記録の追跡調査を実施した。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究 （1／4年次）	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにする。都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域（旧橋樹郡の村々）について基礎的な調査を進めた。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究 （1／4年次）	京浜工業地帯の形成と、その後の展開について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにする。2027（令和9）年の神奈川区・鶴見区の区制100年を見据えつつ、資料等に関する基礎調査を実施した。
横浜の近代遺跡に関する調査研究 （1／4年次）	市域での近代建築の遺構および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の視点から横浜の特性を明らかにする。市域での出土遺物のうち、山手133番地出土遺物について拓本・実測による記録化と内容分析を進めた。
横浜地図データベースの構築	過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに、横浜とその周辺の地図について調査と分析を進め、悉皆的なデータベースを構

(1 / 3 年次)	築する。今年度はHP「横浜地図データベース」に開港資料館所蔵地図の高精細デジタル画像を追加公開した。
昭和期「ヨコハマ」の観光とイメージに関する調査研究 (1 / 4 年次)	昭和期を中心に(1)横浜の都市観光およびその宣伝、(2)都市イメージの形成に関する資料の収集・整理・分析を進め、その特質を考察する。今年度は、戦後の横浜市制作広報映画「ヨコハマ・ポートサイド」14点のデジタル化を実施した。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業の実施。 開港資料館所蔵の戦時資料の調査を行った。また、都市発展記念館所蔵の聖母愛児園・ファチマの聖母少年の町資料群に関する追跡調査を行い、卒園生の聞き取り調査成果を得た。また、聞き取り調査の中で新たな未公開資料群が発見され、卒園生より寄贈の申し出を受けた。この成果は2025年度の企画展で公開予定。 * 開港資料館・市史資料室との連携研究事業

(3) 外部研究者との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
中山恒三郎研究会 (1 / 3 年次)	令和元年度から本格的に開始した文書の整理作業、クリーニングを引き続き実施したほか、仮目録の整備を行った。また、2023（令和5）年3月11日に研究会を実施し、今後の活動方針について検討した。加えて、外部講師として相澤雅雄氏（地域史研究家）を招き、「書画に足跡を残した松林圃の賓客」について報告してもらった。
京浜移住者研究会 (1 / 2 年次)	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を実施する。今年度はシンポジウム「能登半島と近代日本の都市移住者—京浜地域の銭湯経営者を中心に—」を12月3日にラピア鹿島（石川県中能登町）で開催し、現在までの調査成果を報告した。本シンポジウムの成果は、令和5年度発行の都市発展記念館紀要にて公表する。 * 笹川科学研究助成（実践研究部門）及び横浜市ふるさと歴史財団・横浜文化賞奨励金活用研究補助事業として実施。
相武地域史研究会 (2 / 2 年次)	博学連携事業の一環として、東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究（軍隊・戦争と地域社会）を実施する。今年度は相武地域史研究会第4回シンポジウム「軍隊・戦争と地域社会—津久井・横浜・小田原—」を、2022年10月22日（土）に東海大学会場およびオンラインで開催した。

	*開港資料館・東海大学文学部歴史学科との連携研究事業
建築家中村順平に関する基礎的研究 (3/3年次)	横浜高等工業学校建築科(現・横浜国立大学工学部建築学科)の創設100周年に向けて、同校建築科の主任教授を務め、独自の建築教育で多くの建築家たちを育てた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施する。今年度はオンラインで研究会を開催し、100周年に向けた事業計画を検討したほか、戦後の建築学科について卒業生のインタビューを実施した。
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業 (4/5年次)	都市横浜の歴史空間を復元する基礎作業として、幕末期横浜の古地図の描き起こし(トレース)および地図中のくずし字の翻刻をおこなった(「[横浜港御役宅之図]」、「御役所其外地割絵図」、「横浜亀絵図」)。本事業で蓄積した情報・知見をもとに、神奈川県立歴史博物館の特別展「地図最前線」の関連事業に協力をおこなった。 *開港資料館・神奈川県立歴史博物館との連携研究事業

3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。また、毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	・博物館実習の一環として、実習生による館蔵絵葉書を用いたミニ展示「Bon Voyage! 1930sー客船入港からはじまるハマ物語ー」を設置した。
コーナー展の開催	・「吉田初三郎の鳥瞰図」 前期：R4/3/8(火)～5/29(日) 後期：R4/5/31(火)～9/11(日) 当館で所蔵する「鳥瞰図絵師」吉田初三郎の鳥瞰図コレクションから、横浜周辺を描いた鳥瞰図を展示した。
	・「横浜の鉄道歴史遺産」 協力：鉄道開業150周年記念事業委員会 R4/9/14(水)～11/6(日) 鉄道開業150周年記念事業の一環で、横浜市域に残る鉄道遺産のパネルおよび双頭レールなどの原資料を展示した。
	・「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 学校教員や小学校団体向けに、吉田新田エリアの近代以降の発展について資料を常時展示している。

広報動画の制作準備	都市発展記念館の魅力をアピールする広報動画の制作に向けて、今年度はドローン機を使用して、横浜市認定歴史的建造物である旧横浜市外電話局の上空からの映像撮影をおこなった。
-----------	---

(2) 常設展示観覧者の推移(目標数16,000人)

	有料入館者(人)			無料入館者(人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
R4年度	1,250	696	1,946	20,804	22,750	141.8%	279日	82
R3年度	948	763	1,711	14,334	16,045	157.0%	307日	52
R2年度	902	178	1,080	9,141	10,221	31%	242日	42

4 企画普及事業(定款第4条第1項第1号②)

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会を中心に関連パネル展や出版・イベント等の事業を実施しました。あわせてSNSを活用した資料紹介や事業広報を進めました。また小学校団体の受け入れについては、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら、ユーラシア文化館及び開港資料館と一体となって実施しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「激震、鉄道を襲う！関東大震災と横浜の交通網」 令和4年3月12日(土)～7月3日(日) 開催日数97日(うち4月以降80日)	一般 500円 小・中 250円	6,366人 (うち4月以降 5,596人)	関東大震災によって壊滅的な打撃を受けた横浜の交通網の被害状況と、鉄道の復旧過程を主に鉄道技師の残した写真資料を中心に紹介した。 *会期直前の空調機故障により会期を変更して開催。 【関連事業】 (1)展示図録の編集・発行 定価：1320円(税込)、売上：472冊 (2)展示解説(全6回) 3月12日(土)参加者16人 3月13日(日)参加者26人 4月9日(土)参加者10人 5月28日(土)参加者38人 6月18日(土)参加者23人 7月2日(土)参加者27人 (3)パネル展「鉄道橋の関東大震災」の開催 会場：旧第一玄関、1階ギャラリー 1月15日(土)～5月29日(日) (4)Twitterでの展示資料紹介

企画展「横浜鉄道クロニクル」 令和4年8月6日（土）～11月6日（日） 開館日数 80 日	一般 500円 小・中 250 円	6,644人	横浜に残された地域の歴史資料をもとにして、横浜を中心とした鉄道の 150 年をひもといた。 【主な関連事業】 ■展示図録の発行＝販売用 1,000 部・無償配布用 300 部、価格 1,540 円（税込）、売上げ 752 部 ■展示解説＝①8/21(日)、参加者 25 名 ②9/17(土)、参加者 40 名 ③10/14(金)、「鉄道の日」につき無料開館、参加者 60 名 ■ミニ展示「横浜の鉄道歴史遺産」（常設展示室内）＝9/14～11/6、協力：鉄道開業 150 周年記念事業委員会（横浜歴史資産調査会・日本鉄道保存協会） ■ガイドツアー「みなとみらい線で出発進行！」 共催：NPO 法人横浜シティガイド協会 協力：横浜高速鉄道株式会社 ①10/1（土）「港と鉄道」、参加者 ②10/16（日）「横浜の発展と鉄道」、参加者 ■毎日新聞での記事連載（全 6 回） 8 月 27 日、9 月 3 日、9 月 10 日、9 月 17 日、10 月 1 日、10 月 8 日
次年度企画展準備			次年度の企画展示「関東大震災 100 年 大災害を生き抜いて」（仮）にむけて準備を実施した。



「激震、鉄道を襲う！」展示解説



ガイドツアー「みなとみらい線で出発進行！」

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者
R 4 年度	7,667	4,573	12,240	542.8%	161	76
R 3 年度	1,235	1,020	2,255	59.1%	79	29
R 2 年度	2,849	965	3,814	51.3%	116	33

(3) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
パネル展「鉄道橋の関東大震災」 令和4年1月15日(土)～5月29日(日)	5,369人	橋梁専門の鉄道技師であった木村義麿の残した『関東大震災鉄道復旧工事写真帳』(河邊啓太郎氏蔵/横浜開港資料館保管)から鉄道橋の復旧過程を紹介した。 会場: 1F ギャラリー、旧第一玄関
パネル展「IFCAA 2022 YOKOHAMA 開催記念 横浜消防の近代史ー山下町238番地のあゆみー」 令和4年6月2日(木)～8月21日(日)	3,338人	IFCAA 2022 YOKOHAMA (第32回アジア消防長協会総会及び第74回全国消防長会総会)との連携企画。居留地消防隊が置かれた山下町238番地を中心に、横浜消防のあゆみを紹介した。 会場: 1F ギャラリー、旧第一玄関
夏休みイベント「WEBで開催! ミュージアム・ミッション2022」への参加 令和4年7月21日(木)～8月31日(水)	43人	夏休みの子ども向けイベント「WEBで開催! ミュージアム・ミッション2022」に参加。 主催: 神奈川県立歴史博物館
パネル展「関東大震災99周年 寸断された大動脈ー東海道本線の被害と復旧ー」 令和4年9月1日(木)～11月9日(水)	5,724人	関東大震災当時、国府津改良事務所の技術職員であった木村義麿の残した写真を中心に、東海道本線の被災から復旧の過程を紹介した。 会場: 1F ギャラリー、旧第一玄関
出張パネル展示「横浜鉄道クロニクル」 令和4年10月7日(金)～10日(月祝)		鉄道関連イベント「ヨコハマトレインパラダイス」に参加し、特別展「横浜鉄道クロニクル」の展示資料をもとにパネル展示を開催した。 会場: 横浜そごう
開港記念日 *休止中		市内の小学校が休みとなる6月2日の開港記念日を無料開館日とし、小学生向けのワークショップを開催。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中。
月イチ講座の開催 *休止中		1階ギャラリーを活用した月1回定例の講座。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面对面での実施を休止中。 *ユーラシア文化館との共催
第3回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの共催 令和4年11月19日(土)・20(日)	173人 ※一斉展示観覧者(中庭)	日本大通り8カ所、横浜中華街1カ所の合計9会場にポイントを設け、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」、「兵馬俑」を含むスタチューを各日16組設置した(20日は雨天のため一部屋内で実施)。両日全館無料開館

		とするとともに、開催にあたってクラウドファンディングで資金を一般から募った。
開館祭 令和5年2月11日（土）	2,035人	都発・ユ文の開館 20 周年を記念した開館祭を開催した。開館 20 年の歩みを振り返るスライドショーを展示したほか、20 周年記念缶バッジの製作体験、紙芝居の上演や建物ツアー、モンゴルの住居ゲルの設営・解体や馬頭琴の演奏会を行なった。 *ユーラシア文化館との共催



アジア各国の消防長による視察



横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム

（４）地域・行政・学術団体との連携事業

項 目	事 業 内 容
ハマフェスY163（旧横浜セントラルタウン・フェスティバル）への参加 令和4年5月28日（土）・29日（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催した。また両日とも無料開館した。
横浜市消防局消防訓練センター初任教育への講師派遣 令和 4 年 5 月 17 日（火）	横浜市消防局消防訓練センター（戸塚区深谷町）に調査研究員を派遣し、新規採用職員を対象に横浜消防の近代史に関する講義を実施した。（5月27日） *横浜市消防局との連携事業
横浜国際消防・防災展への参加 令和 4 年 6 月 8 日（水）・9 日（木）	パシフィコ横浜 A ホールにて開催された横浜国際消防・防災展（主催：IFCAA 2022 YOKOHAMA 実行委員会）に参加し、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団の広報と、消防及び災害史関連展示の図録販売、パネル展等を行った。 *横浜市消防局、横浜開港資料館との連携事業

横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 令和4年11月26日（土）・27日（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、書院内でのミニ展示「中山家伝来書画と川和の歴史」や、相澤雅雄氏（地域史研究家）を講師に招いての関連講座「書画に足跡を残した松林圃の賓客」を実施した。 参加者：220名（26日）、462名（27日）、43名（講座） ＊横浜開港資料館、横浜市歴史博物館との連携事業 共催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・都筑をガイドする会
第27回震災対策技術展パネル展示「100年前の被災地、横浜—写真が語る関東大震災—」 令和5年2月2日（木）・3日（金）	パシフィコ横浜Dホールにて開催された第27回震災対策技術展（主催：「震災対策技術展」実行委員会）に参加し、関東大震災の写真パネル展を実施した。横浜開港資料館所蔵の西野芳之助撮影関東大震災ガラス乾板を紹介した。 ＊横浜開港資料館との連携事業
「文化財保存活用地域計画」策定に係る協議会への委員派遣 令和5年2月6日（月）	横浜市教育委員会生涯学習文化財課が進める「文化財保存活用地域計画」の策定において、地域計画協議会に委員2名（当館副館長、歴史博物館副館長）を派遣した。
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣 令和4年11月1日（火）、令和5年1月24日（火）、3月8日（水）	横浜市環境創造局が進める「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。
発掘調査および歴史的建造物の保存改修工事等への助言	・山下公園内インド水塔の改修工事に関して、モザイクタイルの保存部位について所管局に助言をおこなった。 ・新港9街区の整備に関して、現地に設置される旧新港ふ頭発電所跡発掘調査に関する歴史サインについて所管局に助言をおこなった。
横浜市公共建築100周年事業への協力	横浜市建築局が開催する公共建築100周年事業（市庁舎でのパネル展示）への館蔵資料の提供および100周年記念誌への原稿執筆をおこなった。
「広報よこはま」への執筆協力	・中区版に連載記事「なか区・歴史の散歩道」を開港資料館と共同で執筆。連載「鉄道150周年記念～中区・駅めぐり編」を掲載した。 ・保土ケ谷区版に連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。12月号に「近代水道と保土ケ谷」を掲載した。

（5）学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生で学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、エドューケーターと職員による解説

	を実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開港資料館講堂の利用も含めて、50校、3,953人の小学校4年生の団体入館を受け入れた。 (前年度小学校4年生29校 2,093人)
教員向け研修の実施 *休止中	財団エデュケーターと連携して、小学校4年生向けの解説・体験メニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中。
神奈川県高等学校文化連盟との連携	神奈川県高等学校総合文化祭・第28回神奈川県高等学校社会科研究大会（11月13日（日）、横浜市歴史博物館講堂）の開催支援を行った。
学芸員実習の受け入れ	4名の学生を受け入れた（8/25～8/31）。博物館における諸活動、資料の収集整理、保存、調査研究、教育普及の実務を体験してもらうプログラムを実施した。また、最終日には、実習生にミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めた。
学外見学の受け入れ	大学の博物館課程の学外施設見学を受け入れた。 立教大学博物館（9/13、15、80名）、日本女子大学博物館（9/16、15名）

（6）広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	年2回の催し物案内、企画展関連広報印刷物、館報を中心に、適宜イベントチラシを作成・配布を行った。 ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第37および38号（各10,000部） ・その他、開館祭チラシなど
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・Twitter・YouTubeチャンネルによるインターネットでの情報配信 新横浜駅デジタルサイネージへの広告掲出 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入

	市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR
--	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「横浜地図データベース」の更新 「戦後の横浜」ページで「映像でたどる戦後の横浜」の公開
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを定期的に配信した。 配信数 75号、号外 計4回
オンラインツールによる情報発信	TwitterやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【Twitter】 ・ツイート数 381 ・リツイート数 2,939 ・いいね数 8,137 ・ツイートインプレッション 653,692 【YouTube】 ・再生回数 3,010 ・総再生時間数 154 ・チャンネル登録者 83 ・公開動画本数 8

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容など
都市発展記念館	・2～4階展示室除湿機設置・配管工事 ・電話設備更新工事 ・収蔵庫空調機修理 ・2～4階展示室入口防火扉 閉鎖装置の交換

	・地下排水ポンプ2台交換 ・収蔵庫給気ファン異音発生修理 ・消防設備点検・防火対象物点検・防災管理点検 ・消火設備部品交換 ・中央監視装置UPSバッテリー交換 ・セキュリティ盤用UPS交換 ・水道メーター交換 ・2階空調機デジタル指示調節計交換 ・エレベータ、自動ドアの定期点検 ・館内清掃、コロナ対策ウイルス除去作業
--	--

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

鉄道開業150年の企画展にあわせ、「横浜停車場」のメモブックや「革の切符」のキーホルダーなど新商品を制作した。オリジナルの絵葉書や缶バッジ、関連の出版物も展開し、久しぶりに賑やかなラインナップとなり売り上げも好調であった。

オンラインショップでは、オンラインショップでは、展示関連の過去の図録にも目がゆきやすいようにレイアウトした。また、Twitterのリンクも貼り展示の最新情報を確認できるように工夫し、売上増に努めた。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移＞

（千円）

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
ミュージアムショップ売上	7, 169	4, 646	1, 887
自動販売機手数料収入	79	73	68

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度は戦後の都市開発関係資料や中区史編纂資料など希少な資料が収集できた。また戦後の映像資料のデジタル化も、着実に進めている。	A
調査研究事業	各調査研究を順調に進め、成果を企画展やHP等で公開したほか、外部研究者との連携研究（京浜移住者研究会・相武地域史研究会）では、これまでの活動の総括となるシンポジウムを開催して、研究成果	S

	を報告した。	
常設展事業	今年度はハマフェス等地域の大規模イベントが再開し、また3年ぶりに実施した開館祭でも多くの来館者を得たことで、入館者数は前年度比144%となり、コロナ前（H30年度）の54%まで回復した。	A
企画普及事業	鉄道開業150周年記念で開催した2回の企画展・特別展がいずれも好調で、コロナ禍により厳しい数字であった前年度から544%増となった。また普及事業の実施件数も大幅に増加し、学校連携では、引き続き感染防止対策のもと市内学校団体の受け入れを実施した。	S
情報事業	定期的なHPコンテンツの更新のほか、Twitterによる積極的な情報発信をおこなった結果、ツイートインプレッションが大きく伸びて前年度から218%増となった。	S
施設維持事業	施設の老朽化が進み、とくに空調設備の改善が喫緊の課題となっている。今年度は次年度に予定されている空調設備更新工事に向けて市の担当部局との調整を進めたほか、1ヵ月の休館期間を設けて、展示室内の除湿器設置工事等を実施した。	A
収益事業	鉄道開業150周年記念の特別展に関連したオリジナル商品を制作販売し、ショップの売り上げに貢献した。昨年度立ち上げたオンラインショップも好調で、前年度比154%の売り上げにつながった。	S

5 ユーラシア文化館事業

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の流行という事態の継続を受けて、引き続き、感染拡大防止に努めるとともに、コロナ禍での事業推進のための取組を行いました。

展覧会では、4月に「ウクライナ緊急支援写真展 姉妹都市オデーサに思いを」を開催し、時宜にかなった企画として大きな反響を呼ぶとともに、横浜市内のウクライナ避難民へ義援金の寄付を行いました。また、企画展「江上波夫没後20年 ユーラシアへのまなざし 造形の美と技」では、当館コレクションの再評価とともに、社会一般のユーラシア地域への関心の高まりを受けて、多くの観覧者を迎えることができました。また、令和5年度に休館を予定しているため、「街に出ていく博物館」を標榜し、アウトリーチ展示を積極的に行いました。

常設展示では、「青が誘うウズベキスタン」の写真展の開催や、企画展に合わせての一部展示替えなどを実施しました。

調査研究では、収蔵資料の基礎的研究や展覧会へ向けて、財団内外の関係者と連携しながら、調査研究を行いました。

普及啓発事業では、1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）を活用し、各種パネル展、企画展に関連した写真展などの催しを実施しました。また、5月末には3年ぶりに実施されたY163ハマフェスへ参加し、11月には財団内外の組織と連携した第3回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム、そして2月には開館20周年記念の開館祭を実施しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈12点 寄託0点	主な収集資料：銅鼓、羅玉蘭氏服飾関係資料
資料の購入	20点	『漢族伝統服飾経典』中国服飾関係図書など
資料熟覧	5件	国内外の研究者による調査研究に対応した。
文献資料熟覧	2件	『龍門石窟』、『日本イラン協会ニュース』など
資料の貸出	0件	
収蔵資料の画像利用	3件	『Teach Yourself 楔形文字』（John Murray 出版社）などへ画像を提供した。

（2）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
和図書・洋図書	書誌データの入力、修正を行った。入力件数 414 件
洋雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 4 件
和雑誌	書誌データの入力、修正作業は行わなかった。

（3）資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・ 歴史資料	0 (0)	0 (0)	12 (152)	0 (0)	12 (152)	9,216 (9,204)
図書	20 (10)	0 (0)	46 (28)	0 (0)	66 (38)	22,648 (22,582)
雑誌	0 (0)	0 (0)	52 (57)	0 (0)	52 (57)	8,460 (8,408)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
合 計	20 (10)	0 (0)	110 (237)	0 (0)	130 (247)	40,344 (40,214)

累計	952	2	39,208	182	40,344	
----	-----	---	--------	-----	--------	--

※（ ）内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部燻蒸庫を借用して酸化プロピレンを使用した殺虫殺菌燻蒸を実施した。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号)

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げてきています。なお、ユーラシア概念に関する歴史博物館や外部研究者との共同研究については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見合わせました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
ユーラシアにおける陶器の研究 (2/2年)	国内の博物館で所蔵するイスラーム陶器などの資料を実見して情報収集と調査研究を行った。これらの成果は今年度の企画展で発表する予定であったが、空調不調による企画展変更となったため。成果の一部は「青が誘うウズベキスタン展」にて新収蔵資料であるウズベキスタン・リシタンの陶器等を紹介した。今後、中央アジアの工芸品に関する展示等で成果を公表したい。
ユーラシアの東西交流の研究 (2/3年)	東西交流に関する資料や文献の収集を行った。また「東京スピニングパーティー2022」に参加し、モンゴル遊牧民のフェルト製作や、マーシュアラブの刺繍製品等について情報収集をおこなった。
ユーラシアにおける芸能の研究 (2/3年)	大道芸・サーカス研究の動向について、情報収集を行った。
ユーラシアにおける人形製品の研究 (2/5)	日本列島新石器時代の人形土製品 (土偶) についての研究史をまとめた論文を執筆した。
ユーラシア概念をめぐる研究 (3/5年)	共同研究会の再開のタイミングを計っていたが、今年度は実施することができなかった。(歴史博物館との連携事業)

横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究（1／5年）	今年度は中国系、インド系市民への聞き取り調査を行い、その成果をニュースの新企画「横浜・この街に生きる 多文化共生都市の主役」で公表した。また、韓国服飾展の準備としてコリアン女性への聞き取り調査も実施した。
令和5年度以降開催予定の企画展調査	令和5年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

（2）研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第11号（A4判、62頁、オンライン公開）を発行。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを近隣博物館と連携して開催するなど、集客とサービスの向上を図りました。

（1）常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	・日本ウズベク外交関係樹立30周年を記念し、「青が誘うウズベキスタン—萩野矢慶記写真展」を開催し、ウズベキスタンの古都の風景や人々の姿を伝える色彩豊かな写真とともに、ウズベキスタンの伝統的陶製人形や民族衣装の帽子などを展示した。 ・企画展やイベントに合わせて、入口ケース、「装う」、「伝える」の展示替えを行った。また、ミュージアム・ミッション2022に参加し古代メソポタミアの祈念者像をクイズに出題し、また、干支コレクションアワード（ネット投票）では新年の干支「うさぎ」に関する常設展示資料を紹介した。

（2）常設展示観覧者の推移（目標数15,000人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
	大人	小中	計					
R4年度	3,011	561	3,572	20,708	24,280	155.3%	277日	87.7
R3年度	774	559	1,333	14,305	15,638	164.4%	296日	52.8
R2年度	273	105	378	9,134	9,512	29.0%	242日	39.3

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市内学校団体受入につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら、都市発展記念館及び開港資料館と一体となって実施しました。また、より多くの方に見ていただけるようSNSの活用やYouTubeでの動画配信も行いました。

（1）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
「ウクライナ緊急支援	一般 200円	4,748人 1日あたり	ウクライナは騎馬遊牧民スキタイ文明の発祥の地である。ロシアのウクライナ侵攻に多大な関心が寄せら

姉妹都市オデーサに 思いを」 R4. 4. 28(木)～5. 29 (日) 会期 32 日間 (うち開館日 数 28 日)	小中 100円	約170人	れる中、姉妹都市オデーサに焦点をあてた写真展を開催し、オデーサの歴史・街・人々の素顔を紹介した。駐日ウクライナ大使館と横浜市国際局の協力をえて、オデーサの写真家による侵攻前後写真など約 30 点を展示した。時宜にかなった展示として、多くのマスコミにも取り上げられ、大きな反響を呼んだ。また、会場での寄付金と 2 階有料ゾーンの観覧料全額合わせて 107 万円をこえる義援金を、横浜市内のウクライナ避難民支援に寄付した。
「江上波夫没後 20 年 ユーラシアへのまな ざし 造形の美と 技」 R4. 11. 17(土)～ R5. 2. 12(日) 会期 88 日間 (うち開館日 数 70 日)	一般 300円 小中 150円	7,556 人 1日あたり 約108人	本年が当館所蔵資料の礎を築いた東洋学者江上波夫氏の没後 20 年になることにちなみ、当館の江上コレクションのうち初公開資料を含めた約 500 点の考古・美術・民族資料等を展示してユーラシア諸地域の造形の美と技を紹介した。これまでの調査研究の成果を公開することができ、楔形文字粘土板文書の全点展示や江上氏自身の視点を加えた解説は大変好評であった。会期中はギャラリートークの実施や新聞連載、ツイッターなどを行ったことで、江上コレクション及び当館の存在をより多くの方に周知することができた。 ●展示図録の編集・発行 B5 判、48 頁 定価：880 円 (税込)、売上：225 冊 【関連事業】 ①ギャラリートーク (12/10、12/17、1/14 (土)、1/21、2/4 午前・午後、2/11 会期中 7 回) 参加者：187 人 ②「見どころ」ツイッターでの作品紹介 会期中の投稿数：ツイート数 103、インプレッション 240,256、新規フォロワー145
アウトリーチ展 横浜中華街 街なかミ ュージウム R4. 9. 23 (金) -10. 10 (月) 会場：Chinatown80 会期 18 日間 (全会期中開 催)	無料	19,000 人 1日あたり 約 1055 人。	横浜開港資料館との連携事業。横浜中華街発展会協同組合との共催。中華街にある催事場 Chinatown80 ホールを会場に、パネルと現物資料により中華街 160 年の歩みを紹介する展示を開催した。普段博物館に訪れたことのない層をターゲットに、クイズ形式などでわかりやすい展示を心がけた。短期間であったが一日あたり、1000 人を超える観覧者があった。
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



「オデーサに思いを」会場風景



「ユーラシアへのまなざし」
ギャラリートークの盛況



横浜中華街 街なかミュージアム
賑わう展示会場

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1日平均入館者
R 4 年度	2,964	4,592	7,556	65.4	70	108
R 3 年度	6,991	4,557	11,548	243.5%	136	85
R 2 年度	2,628	2,114	4,742	21.5%	100	47

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
月イチ講座の開催		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
ハマフェスY163 (旧横浜セントラルタウンフェスティバル)		5月28日(土)・29日(日)に関内・日本大通り・中華街・元町で大規模に開催されるイベントに参加し、無料開館を実施した。また同日、山下公園通りを会場に、横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを開催した。
「ミュージアム・ミッション2022」への参加 R4.7.21(木)～8.31(日)		近隣博物館11館が連携したミュージアムクイズラリー。古代メソポタミアの祈念者像をクイズに出題した。
「なか区ブックフェスタ」への参加 R4.10.1(土)～11.30(水)		2022年が日本・モンゴル外交関係樹立50周年にあたることにちなみ、常設展示室エントランスの「スーホの部屋」を紹介した。
第3回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム R4.11.19(土)・20(日)	173人 ※一斉展示観覧者(中庭・ギャラリー)	日本大通り8カ所、横浜中華街1カ所の合計9会場にポイントを設け、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」、「兵馬俑」を含むスタチューを各日16組設置した(20日は雨天のため一部屋内で実施)。全館無料開館とするとともに、開催にあ

		たってクラウドファンディングで資金を一般から募った。
写真展 青が誘うウズベキスタン —萩野矢慶記写真展 R4. 11. 26(土)～R5. 2. 26 (日)	8,993 人	日本・ウズベキスタン外交関係樹立 30 周年にちなみ 1 階ギャラリー及び常設展示室の一部で開催した写真展。ウズベキスタンのオアシス都市の建築物やバザールや工房で働く人々の姿を映した色彩豊かな写真と陶製人形などの伝統工芸品を展示した。会期中、駐日ウズベキスタン大使がご来訪下さった。
ホテルdeミュージアム 横浜中華街歴史回廊 R5. 1. 21～開催中	1/21～3/21 合計 8,900 人	ローズホテル横浜との共催。「横浜中華街 街なかミュージアム」の好評を受けて、ホテルの廊下を有効活用した企画。中華街の中で街の歴史を紹介する初めての常設展示スペース。ホテルの宿泊客だけでなく、修学旅行生や街の人々など多くが立ち寄るスペースとなっている。
開館祭 R5. 2. 11(土)	2,035 人	都発・ユ文の主催で、2 月 11 日(土・祝)に開館 20 周年を記念した開館祭を開催した。開館 20 年の歩みを振り返るスライドショーを展示したほか、20 周年記念缶バッジの製作体験、紙芝居の上演や建物ツアー、ゲルの設営・解体や馬頭琴の演奏会を行なった。企画展「ユーラシアへのまなざし 造形の美と技」のギャラリートークも実施した。



写真展「青が誘うウズベキスタン」
駐日ウズベキスタン大使のご来訪



ホテルdeミュージアム 横浜中華街歴史回廊
オープニングセレモニー



第 3 回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム

左：日本大通りでの赤い靴女の子 中：中華街での兵馬俑 右：当館中庭でのフィナーレ

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
-----	---------

市内学校団体見学の受入	・国語学習（「スーホの白い馬」）の充実を図るために、市内外の小学校にモンゴル体験キット（モンゴル民族衣装、馬頭琴）を用意した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、開港資料館の講堂も利用して、小学校４年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、都市発展記念館と連携し、職員による解説と体験メニューを実施した。 50校 3,953人（前年度小学校4年生29校 2,093人）
教員向け研修の実施 中止	財団エデュケーターと連携し、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実習期間を6日とし、合計5名の学生を受け入れた。学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。

（６）市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施 中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を中止した。

（７）広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	・新型コロナウイルス感染症拡大のため、行事予定を策定が困難なため、催し物案内の作成を中止した。 ・企画展ポスター・チラシ ・館報『横浜ユーラシア文化館ニュース<i>News From EurAsia</i>』第38（8000部）・39号（8,000部）
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	・横浜市を通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・日本大通り駅改札外へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。

	・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。
--	---

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。
	文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物・休館や再開館についての広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 158,719 件（前年度の 81 %）
SNSによる情報発信	Twitter はツイート数合計 143、フォロワー2,196 人、インプレッション合計 39,7103。YouTube は、新規動画 2 本、視聴回数 3,935 回、総再生時間 103.8 時間、チャンネル登録者 227 人。Facebook については、管理やカウントの方法を検討中である。

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	・2～4 階展示室除湿機設置・配管工事 ・電話設備更新工事 ・収蔵庫空調機修理 ・2～4 階展示室入口防火扉 閉鎖装置の交換 ・地下排水ポンプ 2 台交換 ・収蔵庫給気ファン異音発生修理 ・消防設備点検・防火対象物点検・防災管理点検 ・消火設備部品交換 ・中央監視装置 UPS バッテリー交換 ・セキュリティ盤用 UPS 交換 ・水道メーター交換 ・2 階空調機デジタル指示調節計交換 ・エレベーター、自動ドアの定期点検 ・館内清掃、コロナ対策ウイルス除去作業

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

展示や写真展に関連した商品を展開した。タイに住む山岳少数民族のアカ族の手仕事を活かしたペンケースやカレン族の手織り生地を贅沢に使ったバッグなどを販売しフェアトレードを意識し、また、ウズベキスタンの陶器の町・リシタンにある無償の日本語学校「Noriko 学級」の工房で制作された作品を販売することにより、Noriko 学級へチャリティとなるよう商品を選定するなど社会貢献につながるショップづくりを心がけた。

オンラインショップでは、展示関連の過去の図録にも目がゆきやすいようにレイアウトした。また、Twitter のリンクも貼り展示の最新情報を確認できるように工夫し、売上増に努めた。

（2）自動販売機（1 台）の設置

＜各事業の推移：再掲＞

（千円）

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
ミュージアムショップ売上	7, 1 6 9	4, 6 4 6	1, 8 8 7
自動販売機手数料収入	7 9	7 3	6 8

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は着実に進捗した。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも適宜対応した。	A
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗することができた。	A
常設展事業	常設展については、干支クイズなどの時宜にかなった企画の実施、企画展に合わせ展示内容を連動させるなど集客を図った。	A
企画普及事業	財団内外と連携して、ユーラシア地域の人の移動と文化変容に関する2回の企画展を開催し、コロナ禍にも関わらず好評を得た。また今年度は第3回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施し、大変好評を得た。また、都市発展記念館と一体となって、制約がありながらも、市内学校団体受入を実施した。学校連携では、モンゴル関係キットの貸し	S

	出しを行った。	
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用し、広報強化に努めた。また、Twitter や YouTube などインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく円滑な運営に努めた。	A
収益事業	2回の企画展では有料入館者が多く、また図録など関連出版物の売り上げが好調に伸びた。 感染対策として、店頭の図録や鳥瞰図は見本だけをならべ、そのほかの商品も OPP 袋に入れられるものだけを販売していたが、店頭の商品を徐々に増やし、年度内にほぼすべての商品が並んだ。まだ出せていない高額の商品は、外のラックとエレベーター内にポップを貼り、希望される方に商品をご覧いただくスタイルにし、売り上げを伸ばした。 オンラインショップを開店させ、企画展図録などはHPの企画展ページや YouTube チャンネルと連動させて、より内容が伝わりやすいように工夫したり、ちらしやニュースを同封したりして、遠方からの発注者のニーズにも応えた。	S

6 三殿台考古館事業

令和4年度も新型コロナウイルス感染症への対応として、館内の十分な換気や入館人数の制限、手指消毒の推奨など感染防止策を講じました。また感染症だけでなく熱中症への対応も考慮し、基本的に盛夏の7・8月はイベントの開催を避け、GWや秋季に体験学習を実施したほか、「ダイヤモンド富士」や「夜景」の鑑賞会などを開催しました。また賑わいの創出としてどんぐり拾いを推奨し「どんぐり銀行」へ預け入れる新たな試みも始めました。

資料収集保管事業・調査研究事業は、発掘調査後60余年を経過した収蔵資料について、整理ボランティアの協力を得て再確認・再整理や資料の修復をおこないました。また、保管していた土壌の精査により新たな資料を抽出しました。経年劣化によりその毀滅が危惧されるフィルム・紙ベース等の記録資料は、保存および活用を図るためデジタル化を継続しました。

常設展事業では、横浜市歴史博物館の「茅葺き屋根プロジェクト」と連携し、ボランティアによる補修（刺し茅）作業をおこないました。小学校の社会科見学では児童の興味と関心を導き出した

め、見学だけでなく体験学習を多用したプログラムを提供しました。とくに隣接する岡村小学校では多学年にまたがって学習の支援をおこないました。住居跡保護棟内では亀裂の補修や蘇苔類等の防除を定期的を実施しました。

企画普及事業は、弓矢うち大会や体験学習など14のイベントに加え、ダイヤモンド富士や夜景といった屋外で楽しめる当館の魅力をアピールしました。これらのイベント情報を当館ホームページ・ツイッターなどのSNSや各種広報紙で広く市民に発信しました。ガイドボランティアを新たに募集し、土日祝日の来館者への常設展示・遺跡ガイドを充実させました。また**今期より秋季限定でどんぐりを拾って預け入れる「どんぐり銀行」に参加し、小さい子を連れた親子層や保育園・幼稚園などの来館者にどんぐり拾いを促しました。**

施設維持事業として、出勤スタッフによる施設内の清掃、草刈り、樹木剪定等日常の施設管理および点検を毎日行いました。施設の老朽化に伴い腐食が進んだ旧事務棟の鉄骨・屋根・天井や外周擁壁の補修、外灯用鉄柱の撤去を行ない一層の安全管理に努めました。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタル化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	作業には整理ボランティアの協力を得ながら、資料の洗浄や復元・実測等をすすめた。保管土壌の精査で微小巻貝や小骨片などの新たな資料を抽出した。また、発掘時の原図を見直し、遺跡全体図の再作成作業を継続した。
記録資料のデジタルデータ化事業	測量図面や写真フィルム等アナログデータのデジタル化を継続し、記録の保存・活用に備えた。また、所属遺構が特定されていない写真についての特定作業をすすめた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類した。

（2）調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	市民ボランティアの協力を得て、出土品の再整理作業（分類・接合・復元・実測）を行い、再評価のための基礎データを集積した。
三殿台考古館収蔵資料の活用	小学6年生の社会科見学に際して、三殿台遺跡発掘調査の映像資料（web）を事前学習に活用することを推奨した。また、土器片や石器等の収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史教育の支援に活用した。

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 令和4年度来館者数 13,838人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体及び一般来館者見学時に、遺跡や展示品についての解説を丁寧に行いました。

(1) 常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	職員が団体及び一般来館者の見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚に及び展示資料について、3,383人に案内・解説を行った。

(2) 住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	堅穴住居跡保護棟のメンテナンスを専門業者に委託した。(隔月実施)

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

コロナ禍の影響で限られたイベントの開催となりましたが、市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう生涯学習を支援しました。

(1) 企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
「いそっぴゴールデンウィーク 2022」スタンプラリーへの参加	131 人	4月24日から5月5日の期間で磯子区役所主催の「いそっぴゴールデンウィーク2022」スタンプラリーに参加した。62名が景品交換をした。
「子どもアドベンチャーカレッジ 2022」	15 人	今年度よりリニューアルした「子どもアドベンチャーカレッジ」に参加した。
三殿台遺跡整理ボランティア	498 人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測及び石器の実測作業を行った。 記録資料整理に際しては、写真資料整理・デジタル化作業を行った。
遺跡ガイドボランティア	118 人	4人のボランティアが土日を中心に、来館者へ遺跡解説を行った。延べ1,484人をガイドした。
ダイヤモンド富士観賞会	(秋) 49 人 (春) 99 人	9/28～30・3/14～16 秋・春の「ダイヤモンド富士」の期間に閉館時間を延長して鑑賞会を実施した。
夜景観賞会	10 人	12/17・18 堅穴住居跡や通路をライトアップし、高台にある遺跡からヨコハマの夜景を楽しんでもらった。
講師派遣	14 人	8/9 大岡地区センターでの勾玉作り体験学習に講師を派遣した。
ホームページ等の運営		ホームページ及びツイッターで催事等を広報した。 年間催事案内を常時掲載し、体験教室等のイベント情報を発信した。三殿台考古館のEメールアドレスをアップし、イベントの申し込みに対応させた。

その他広報		・広報よこはま磯子区版に体験教室等の情報を提供した。 ・前年から引き続きタウンニュースに「60 年前の三殿台発掘」シリーズを連載（～10 月） ・プラネット神奈川及び横浜カレンダーに体験教室等の情報を提供した。
-------	--	---

（２）体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	①19 人 ② 9 人 ③11 人 0 人 19 人 4 人 17 人 14 人 9 人 7 人 15 人 26 人 15 人	・ゴールデンウィーク体験教室 ①5/3（祝） 古代人体験教室 ②5/4（祝） 勾玉作り体験教室 ③5/5（祝） 石器作り体験教室 ・春の弓矢うち大会（5/14 雨天中止） ・開港記念日イベント「火起こし体験」（6/2） ・秋の勾玉作り体験教室（9/10） ・秋の弓矢うち大会（9/17） ・秋の土器作り体験教室（10/8） ・秋の土偶作り体験教室（10/9） ・秋の土器作り教室（10/15・16） ・秋の石器作り体験教室（10/22） ・秋の野焼き（11/5） ・冬の弓矢うち大会（12/3）

（３）グッズ製作・販売事業

項 目	事 業 内 容
缶バッジの製作・販売	売上げ 88 個×@100 8,800 円
土器片ペンダントの製作・販売	売上げ 29 個×@500 14,500 円
ミニチュア土器の製作・販売	売上げ 1 個×@800 800 円
オリジナルクリアファイルの販売	売上げ 25 枚×@200 5,000 円
勾玉づくりキットの製作・販売 （青田石・滑石）	売上げ 71 個×@400 28,400 円（青田石） 売上げ 379 個×@300 113,700 円（滑石）

（４）学校連携事業

項 目		事 業 内 容
学校団体見学の受入れ	2,560 人	小学校 6 年生の社会科見学は24校1,841人が来館した。 引率教諭との事前打合せを経て、三殿台遺跡の解説及び4種類の体験プログラムを授業に組み入れた。

クラブ活動・授業づくり支援	各回 24 人 60 人 各回 23 人 各回 69 人 79 人	・岡村小学校の地域交流クラブに講師 2 名を派遣し、勾玉作り・弓矢づくり等の指導を行った。(全 9 回) ・同小 2 年生のまち歩き探検に対応した。 ・同小 3 年生の総合学習に対応した。(全 3 回) ・同 6 年生の土器作り指導に職員 2 名及び外部講師を派遣した。(全 3 回) インターナショナルスクール 2 校を対象に体験学習を受け入れた。
---------------	---	--

(4) 施設連携事業

項 目	参加人数	事業内容
茅葺き屋根プロジェクト	5 人	歴博で実施している『かやぶき屋根プロジェクト』の一環として、ボランティアによる復元住居（古墳時代）茅葺き屋根の補修をおこなった。

(5) その他利用促進事業

項 目	参加人数	事業内容
弓矢うち体験	3,799 人	敷地内で手作り弓矢を無料で貸し出し弓矢うちを体験させた。
どんぐり銀行		来館者に拾い集めてもらったどんぐりを、「どんぐり銀行」に預け入れた。令和 4 年度は 8,100 粒を預けた。 ※どんぐり銀行：高知県大川村で水源保全のため行なっている植樹事業

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に満足感を与えるよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
経常的な維持・管理	・施設の維持管理を実施した。 ・遺跡内草刈り、植栽剪定を実施した。 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業や、施設内巡回などの危機管理対策を実施した。 ・外周擁壁の一部が破損したため補修をおこなった。

(2) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	令和 1 年度
自動販売機売り上げ（千円）	23	27	24	23

(3) 三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和1年度
三殿台考古館施設入場者（人）	13,838	15,780	11,597	13,427



学校見学



土器作り体験教室



茅葺き屋根プロジェクト

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	三殿台遺跡出土品の洗浄・注記・接合などの基礎整理や実測・拓本取り、収蔵記録資料のデジタルデータ化などを、整理ボランティアの協力を得て継続した。	B
常設展事業	学校・一般団体、その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室について職員が展示解説を実施した。 コロナ禍の影響がまだ残るなかで、入館者数はやや減少したが、小学6年生の社会見学をはじめ、学校団体の利用は44校 2,560人を数えた。	S
企画普及事業	屋外で行う無料の弓矢うちは人気が高く 3,799人が体験した。ダイヤモンド富士・夜景観賞会では開館時間を延長し、来館者に景観を楽しんでもらった。ガイドボランティアは延べ118人の協力により約1,500人の来館者に解説を行った。 三殿台遺跡についてタウンニュースで連載し、地域への施設の周知を促した。 利用促進の一環として、新たに「どんぐり銀行」のシステムに参加し、入館者にどんぐりを拾っていただき預け入れた。	A

施設維持事業	職員による毎日の環境整備を実施した。旧事務棟・展示棟・住居跡保護棟・擬木標示遺構の維持管理を適切に行い、老朽化により破損した旧事務棟・外周擁壁の修繕や倒壊の恐れのある外灯用鉄柱を撤去した。	S
--------	--	---